

「令和4年度全国学力・学習状況調査」の
結果について

令和4年8月25日（木）

富山市教育委員会

目 次

I	本調査の目的	1
II	実施状況	1
III	教科に関する結果の概況	
1	教科区分別平均正答率 (%)	1
2	結果の概要	1
IV	本調査結果の考察	
1	教科に関する調査の結果から	
(1)	小学校国語	2
(2)	小学校算数	4
(3)	小学校理科	6
(4)	中学校国語	8
(5)	中学校数学	10
(6)	中学校理科	12
2	児童生徒質問紙調査の結果から	14
3	学校質問紙調査の結果から	16
V	今後の取り組み	
1	調査結果の取り扱い	18
2	教科に関する調査と児童生徒質問紙調査、及び 学校質問紙調査の関連	18
3	授業改善に向けた指導の重点	22
	〈資料〉	
1	全国学力・学習状況調査 富山市と全国、県との平均正答率の比較	26
2	小学校6年生 設問別結果一覧	29
3	中学校3年生 設問別結果一覧	35
4	児童生徒質問紙調査	41
5	学校質問紙調査	47

「令和4年度全国学力・学習状況調査」の結果速報について

富山市教育委員会

I 本調査の目的

- 1 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 2 市教育委員会が、全国的な状況との関係において、本市の教育の結果を把握し、改善を図る。
- 3 各学校が、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

II 実施状況

- 1 実施期日 令和4年4月19日(火)
- 2 調査内容 教科に関する調査 国語、算数・数学、理科
質問紙調査 児童生徒、学校
- 3 実施学校数、実施児童生徒数

小学校6年		中学校3年	
実施学校数	実施児童数	実施学校数	実施生徒数
64校1分校	3,137人	25校1分校	3,094人

III 教科に関する結果の概況

- 1 教科区分別平均正答率(%)

	小学校6年			中学校3年		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
富山市	67	66	69	70	55	52
富山県	67	66	68	70	55	52
全国	66	63	63	69	51	49

- 2 結果の概要

- ・小学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語は1ポイント、算数は3ポイント、理科は6ポイント上回っている。
- ・中学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語は1ポイント、数学は4ポイント、理科は3ポイント上回っている。
- ・平均正答率を県と比較すると、小学校では国語、算数が同等で、理科が上回っている。中学校では国語、数学、理科で同等である。

IV 本調査結果の考察

1 教科に関する調査の結果から

(1) 小学校国語

・以下の集計値は、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

凡例	◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の内容・観点
	○ 全国を上回るものの、県を下回る内容・観点
	■ 全国を下回るものの、県を上回る内容・観点
	▲ 全国及び県を下回る内容・観点

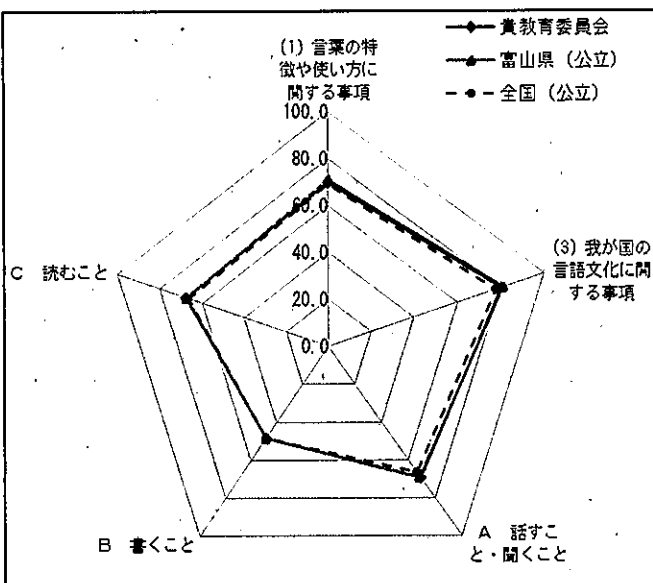
※ ひとつの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分数については各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	67	67	65.6

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)				
			富山市	富山県	全国		
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	○	70.0	71.1	69.0	
		(2) 情報の扱い方に関する事項					
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	○	80.2	81.0	77.9	
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	2	◎	69.0	68.7	66.2
		書くこと	2	◎	48.6	48.3	48.5
		読むこと	4	◎	67.7	67.4	66.6
評価の観点	知識・技能	6	○	71.7	72.8	70.5	
	思考・判断・表現	8	◎	63.3	63.0	62.0	
	主体的に取り組む態度	0					
問題形式	選択式	8	◎	73.9	73.2	71.8	
	短答式	3	▲	62.7	65.1	63.6	
	記述式	3	○	52.5	53.1	51.3	

<集計結果>

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 全国と平均正答率を比較すると、1.4ポイント上回っている。内容の「思考力・判断力・表現力等」では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」全てにおいて、全国、県の平均正答率を上回っている。
- 問題形式のうち、「選択式」の問題の平均正答率が73.9%で、全国を2.1ポイント、県を0.7ポイント上回っている。
- 問題形式のうち、「短答式」の問題の平均正答率が62.7%で、全国を0.9ポイント、県を2.4ポイント下回っている。

(凡例:○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- 区分「話すこと・聞くこと」は平均正答率が69.0%と3つの区分の中で最も高く、全国を2.8ポイント上回っている。その中でも「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題」では、平均正答率が85.4%と高い。話し手と聞き手のやり取りを踏まえ、聞きたいことの中心をとらえる力が定着している。
(問題1三)
- 区分「言葉の特徴や使い方に関する事項」の「話し言葉と書き言葉との違いを理解する問題」では、平均正答率が88.5%と全ての問題の中で最も高い。同音異義語が複数ある言葉を話し言葉として用いる場面では、聞き手の誤解を招かないようにする必要があることを理解している。
(問題1一)
- 区分「言葉の特徴や使い方に関する事項」の「漢字を文の中で正しく使う問題」では、「録画」の平均正答率が62.2%で、全国を3ポイント下回っている。また、「親(しむ)」の平均正答率が65.0%で、全国を2.1ポイント下回っている。漢字の読み方や意味、例文や熟語を辞書で確認すること、その漢字を使った言葉集めや文づくりなどの学習活動を取り入れることが効果的である。さらに、習得した漢字や熟語を他教科等の学習でも意識して使わせたい。
(問題3三アウ)
- 区分「書くこと」の「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけて書く問題」の平均正答率が37.3%と全ての問題の中で最も低く、無回答率も16.0%と全国より1.5ポイント高い。自分の文章のよいところを見つけさせるために、文章全体の構成や展開が明確になっているかなどの観点から具体的に感想や意見を伝え合ったり、それを受けて自分の文章を客観的に振り返ったりする場を設けたい。その際には、相手意識と目的意識を明確にした上で書く活動に取り組み、自分が書いた文章を読み返し、文章を整えることを意識づけるなど、自分の文章をよりよくしたいと粘り強く取り組む態度を育てることが大切である。また、「言葉や文を取り上げて書く」「字数を決めて端的に書く」など条件の中で考えをまとめて書く学習を多く取り入れるのも効果的である。
(問題3二)

(条件)

- 「文章2」のよさを書くこと。
- 「文章2」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内にとめて書くこと。

※ 本文の黒点線部分は書き写すので、後でも使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きます。黒点線の印から書きましょう。どちらの手で字を写すかで、紙の向きを調整してください。


二 鳥谷さんは、川口さんと「文章2」を読み合い、感想を伝え合いました。次の「伝え合いの様子」の一部をよく読み、おどの問いに答えましょう。

【伝え合いの様子の一部】

鳥谷さん 私のがんばろうとしていることが伝わるかな。
川口さん 伝わってきたよ。それは、上級生が話してくれたことや、委員会で活動したことをもどしているからだね。

鳥谷さん それはよかった。他に気づいたことはあるかな。
川口さん 最後の段落がいね、なぜかという、最初の段落の内容をより具体的に書いているから、今年がんばろうとしていることがよく伝わってきたよ。
鳥谷さん ありがとう。自分でも振り返ってみるね。次は、川口さんの文章をじっくり感想を伝えるね。

△ (伝え合いが続く) △



(●問題3二 正答率37.3%)

(2) 小学校算数

<集計結果>

・以下の集計値は、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

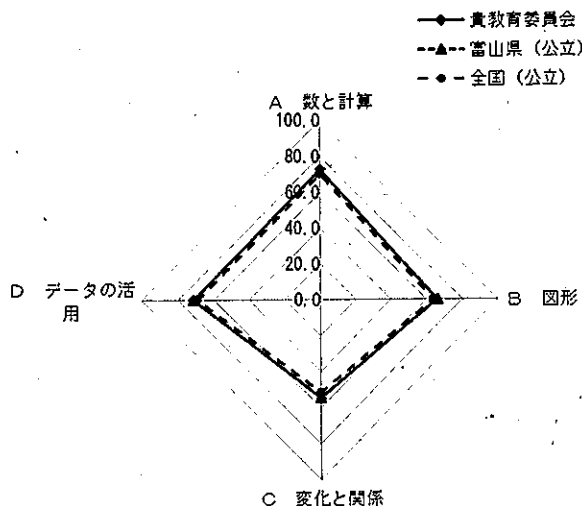
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
 ○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
 ■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
 ▲ 全国及び県を下回る領域等・観点

※ ひとつの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	66	66	63.2

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域等	A 数と計算	6	◎ 72.6	72.5	69.8
	B 図形	4	○ 66.1	66.4	64.0
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	◎ 55.0	54.3	51.3
	D データの活用	3	○ 71.2	71.4	68.7
評価の観点	知識・技能	9	◎ 71.4	71.2	68.2
	思考・判断・表現	7	◎ 59.2	59.1	56.7
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	◎ 54.3	53.8	51.8
	短答式	6	◎ 80.5	80.5	76.5
	記述式	4	○ 62.0	62.3	60.2

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 全国の平均正答率と比較すると、算数は2.8ポイント上回っており、全ての領域や評価の観点、問題形式で全国を上回っている。
- 領域ごとの平均正答率は、「C 変化と関係」で3.7ポイント全国を上回っている。
- 問題形式ごとの平均正答率は、「短答式」が4ポイント全国を上回っている。
- 県の平均正答率と比較すると、領域では、「B 図形」で0.3ポイント、「D データの活用」で0.2ポイント下回っている。また、問題形式では、「記述式」で0.3ポイント下回っている。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

(○)は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- 区分「数と計算」は、平均正答率が72.6%と4つの区分の中で最も高い。「整数の乗法の計算問題」では、平均正答率は93.2%で、全ての問題の中で最も高い。計算に関する基本的な技能が身につけている。(問題1(1))
- 「二つの数の最小公倍数を求める問題」では、平均正答率が全国を8.3ポイント上回った。倍数の視点から整数をとらえ、その数の性質を理解し、処理する技能が身につけている。(問題1(2))
- 区分「変化と関係」の「数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかをみる問題」では、平均正答率が21.7%であり、全ての問題の中で最も低い。割合を形式的に求めるだけでなく、日常の具体的な場面に対応させながら割合についての意味と理解を深めるような学習が大切である。(問題2(3))
- 「記述式」の問題の平均正答率は全国よりも1.8ポイント高いが、他の問題形式と比較すると無解答率が高い。「加法と乗法の混合したポイント数の求め方を記述する問題」では、無解答率が8.8%であり、全ての問題の中で最も高い。他者の考えを解釈し、その考え方で求めたり、必要な数値を読み取り、条件に合わせて考えを言語化したりするなどの学習が必要である。(問題3(4))
- 区分「図形」の「正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題」では、平均正答率が全国より0.7ポイント、県より0.9ポイント下回った。意図したプログラムに修正するためには、回転する角度の大きさに着目し、考察する必要がある。作図の手順からどのような図形ができるか判断したり、作図の仕方について筋道を立てて説明したりするなどの学習の充実が求められる。(問題4(1))

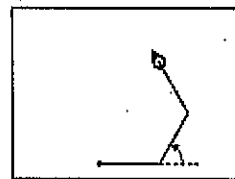
(1) はなこさんたちは、1辺が5cmの正三角形をかこうとしています。

はなこさんは、下のかこうとした正三角形をかくことができませんでした。

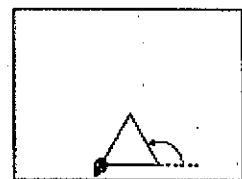


正三角形は、3つの辺の長さが等しく、3つの角の大きさがすべて60°の三角形ですね。

はなこさんは、正方形のプログラムをもとにして、正三角形をかいたためのプログラムをつくり、実行しました。



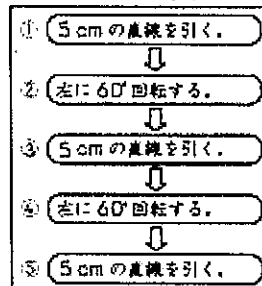
実際の結果



かこうとした正三角形

そこで、つくったプログラムを見直すことにしました。

つくったプログラム



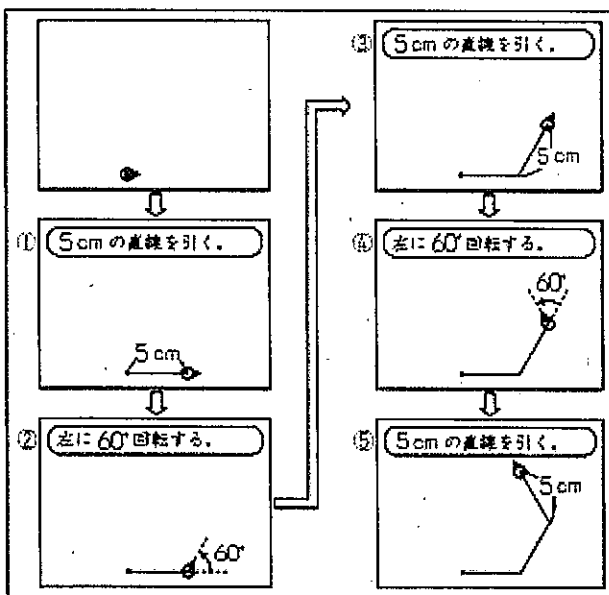
5cmの直線を引く。
左に60°回転する。
2種類の命令のうち、どちらかの命令を直すとかこうとした正三角形ができますね。



かこうとした正三角形をかくには、どちらの命令を直すといですか、一下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。また、その選んだ命令を、言葉と数字を使って、正しい命令に書き直しましょう。

ア 5cmの直線を引く。

イ 左に60°回転する。



(● 問題4(1) 正答率48.1%)

(3) 小学校理科

＜集計結果＞

・以下の集計値は、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

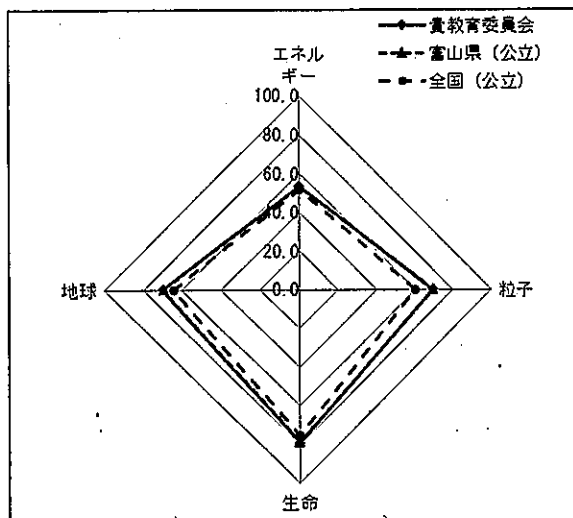
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
 ○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
 ■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
 ▲ 全国及び県を下回る領域・観点

※ ひとつの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	69	68	63.3

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域	A エネルギー	4	◎ 53.5	53.0	51.6
	A 粒子	5	○ 69.5	69.6	60.4
	B 生命	5	◎ 79.1	78.5	75.0
	B 地球	5	◎ 70.2	69.8	64.6
評価の観点	知識・技能	6	◎ 70.7	70.5	62.5
	思考・判断・表現	11	◎ 67.3	66.9	63.7
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	11	◎ 70.7	70.2	66.8
	短答式	3	◎ 79.0	78.7	66.2
	記述式	3	◎ 50.1	50.1	47.3

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



＜結果の概要＞

- 全国と平均正答率を比較すると、5.7ポイント上回っている。また、全ての領域や評価の観点、問題形式で全国を上回っている。
- 領域ごとの平均正答率は、「粒子」で9.1ポイント、「地球」で5.6ポイント全国を上回っている。
- 問題形式のうち、「短答式」の正答率は、79.0%と全国を13.8ポイント上回っている。一方、「選択式」は3.9ポイント、「記述式」は2.8ポイントであり、「短答式」と比べて全国との差は小さい。


(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)


- 区分「生命」の平均正答率が79.1%と4つの区分の中では最も高い。昆虫の成長のきまりや体のつくりを正しく理解し、身の回りの生物について観察する基本的な技能や、差異点や共通点を基に問題を見いだす力が身についている。
- 区分「地球」の「観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことができるかをみる問題」は、平均正答率が53.2%であり、全国を7.7ポイント上回った。日付や天気、気温といった変化する複数のデータから特徴を読み取り、自らの考えをつくり、他者と意見交換をしながら、自分の考えの妥当性を検証していく場面を今後も大切にしていける必要がある。 (問題4(3))
- 区分「エネルギー」の「日光は直進することを理解しているかみる問題」の平均正答率は27.5%と全ての問題の中で最も低く、全国より0.3ポイント低い。日光が直進していないものを選択して解答している児童の割合は50.3%であり、反射させた日光であっても直進することを理解できていない。実感を伴った理解とするためには、問題意識をもって実験や観察をしたり、学習の成果を生活経験と関連づけてとらえたりすることができるよう学習過程を工夫することが大切である。 (問題3(1))
- 区分「粒子」の「自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかをみる問題」では、平均正答率が41.2%であった。自然の事物・現象を提示した際に、どのような問題を見つけたのかを児童相互に情報交換する場を確保し、差異点や共通点をとらえながら比較し、契機として新たな問題を見いだしていく状況をつくるのが大切である。 (問題2(4))
- 問題形式の中で「記述式」の3つの問題は、無回答率がいずれも5%以上であった。その中でも、区分「エネルギー」の「問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く問題」の無回答率は、10.7%と最も高かった。実験の結果を表やグラフ等に整理・分析し、解決したことを結論の根拠として言語化し、書くことを通してまとめる活動の場を確保していく必要がある。 (問題3(4))

(4) 砂礫水をおおせた物は、紙茶に入れておしずみました。




たろうさん


水をおおせた物は、紙茶にうくのくに、砂礫水をおおせた物は、しずんだよ。




水を
おおせた物



砂礫水を
おおせた物




水を
おおせた物




砂礫水を
おおせた物

水に入れても、砂礫水をおおせた物は、しずんだよ。



りかさん

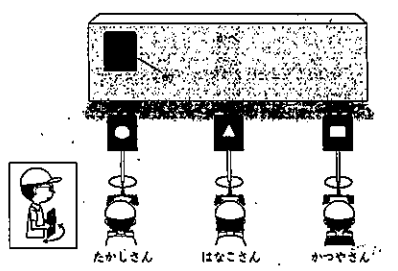


はるとさん

砂礫水をおおせた物だから、水にしずんだのかな。砂礫水ではない、ほかの水よう液をおおせた物でも試してみたいね。

はるとさんは、試してみたいことともに、【問題】を見つけた。はるとさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

3 たかしさんは、晴れた日に科学クラブで、同じ大きさの鏡を使い、日光をはね返して、約あてゲームをしました。



たかしさん はなこさん かつやさん

上の図のように、3人がおのづかに、それぞれ、四角形、三角形、四角形に切り抜いた、鏡と同じ大きさの段ボールの板を置きました。

(1) 3人が上の図の位置で鏡の向きを変え、それぞれが日光をはね返して、3つの段ボールの板にあてたときに、かべの空にある的に、三角形の光をあてることができるのはだれですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 たかしさん
- 2 はなこさん
- 3 かつやさん
- 4 全員

(●設問2(4) 正答率41.2%)

(●設問3(1) 正答率27.5%)

(4) 中学校国語

<集計結果>

・以下の集計値は、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

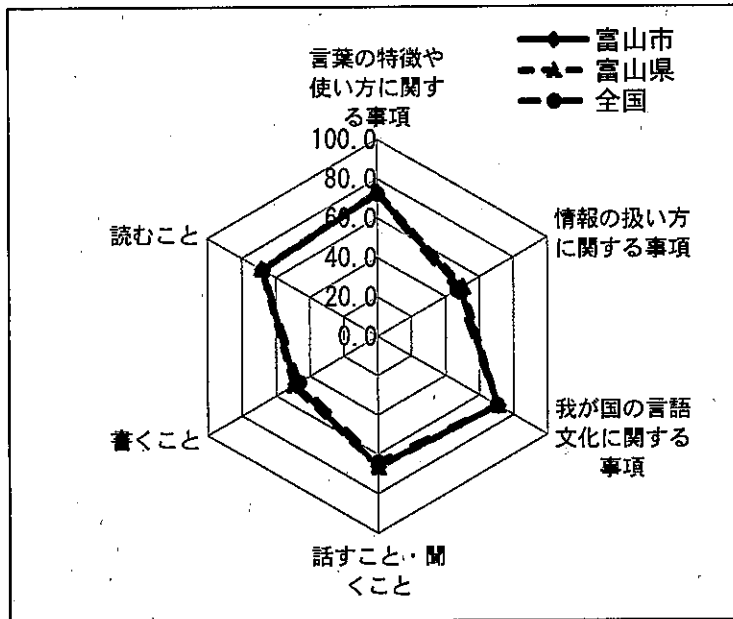
凡例	◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
	○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
	■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
	▲ 全国及び県を下回る領域等・観点

※ ひとつの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	70	70	69.0

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	○ 72.5	73.2	72.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	1	○ 48.5	49.9	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	◎ 70.8	70.7	70.2
	話すこと・聞くこと	3	○ 66.1	66.4	63.9
	書くこと	1	○ 48.5	49.9	46.5
	読むこと	2	○ 68.1	68.5	67.9
評価の観点	知識・技能	10	○ 69.6	70.1	69.0
	思考・判断・表現	6	○ 63.8	64.4	62.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	◎ 74.5	74.4	73.7
	短答式	5	○ 70.7	71.6	70.3
	記述式	3	○ 58.7	59.4	57.4

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



○ 全国と平均正答率を比較すると、1.0ポイント上回っている。領域、評価の観点、問題形式別でも、全てで全国を上回っている。

● 県と平均正答率を比較すると、領域では、「(3) 我が国の言語文化に関する事項」で0.1ポイント上回っている以外は、全ての領域等で下回っている。最も大きな差があるのは「(2) 情報の扱いに関する事項」で、県を1.4ポイント下回っている。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

- 区分「我が国の言語文化に関する事項」の「漢字の行書の読みやすい書き方について理解しているかをみる問題」は、正答率が91.0%で、全ての問題で最も高く、全国平均を0.9ポイント上回っている。また、「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解しているかどうかをみる問題」は、正答率が81.4%と高かった。行書の書き方に関する知識・技能が定着していることがうかがえる。(問題4二、三)
- 区分「話すこと・聞くこと」の各問題について、全国平均と比較すると、「論理の展開などに注意して聞くことができるかをみる問題」では2.7ポイント、「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかをみる問題」では2.4ポイント上回っている。話す活動では、聞き手を意識した指導を継続したい。(問題1二、三)
- 区分「我が国の言語文化に関する事項」の「行書の特徴を理解しているかをみる問題」の正答率は39.8%で、全問題の中で最も低い。楷書と行書で漢字の筆順が変化することについての理解が十分でないと考えられる。行書の指導では、基礎的な書き方を理解した上で、学習や生活の中で使用頻度の高い語句等を取り上げて書くなど、行書の特徴について実感を持った知識として定着するよう指導方法を工夫する。(問題4一)
- 区分「情報の扱い方に関する事項」及び「書くこと」の「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかをみる問題」の正答率は48.5%と低い。目的意識を明確にした上で、根拠を示しながら自分の考えを書く活動を継続的に取り入れる必要がある。その際には、文章の引用時にかぎっこ(「」)でくくるなどのルールを確実に指導したい。また、資料を読み取る活動を行う際には、他者と意見交換を行う機会を設けるなど、他とかかわりながら情報の扱い方を学ぶ取り組みを行うことも効果的である。(問題2三)
- 区分「言葉の特徴や使い方に関する事項」の「表現の技法について理解しているかをみる問題」の正答率は52.2%と低く、全国平均を0.3ポイント下回っている。表現技法の学習では、個別の技法等に関する知識の習得に終始せず、表現技法が効果的に使われている文章を読み、その効果を実感したり、短歌や俳句の創作活動で表現技法を取り入れた作品を紹介し合ったりするなど、表現技法を味わう活動と、使う活動をバランスよく実施したい。(問題3一)

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

三 小林さんは、上野さんと中村さんからの「コメントの一部」を踏まえて、 で聞かれた「スマート農業」には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。のすくあとに、スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなたならどのように書きましますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「農林水産省のウェブページにある資料の一部」から必要な情報を引用して書くこと。引用する部分は、かきかっこ(「」)でくくること。

条件2 「例えは」に続けて書くこと。

2 小林さんは、国語の時間に、「先導技術との関わり方」というテーマで意見文を書いています。次は、文章作成ソフトを使って小林さんが書いた【意見文の草稿】と文章を書いた【コメントの一部】、小林さんがコメントを受けて書いた【農林水産省のウェブページにある資料の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【意見文の草稿】

私たちの生活は、先導技術により、わずかな期間で大きく変化してきている。便利なことが増えてよいと感じるが、目的に応じて適切に活用することが大切だと思う。

そう考えるようになったのは、農業を学ぶ、はたか農地を二人で管理している祖父だ。スマート農業についての話を聞いたからだ。祖父は、先導技術によってロボットやドローンを使い、作業の効率を上げた。そのおかげで、農地を耕したり水をまいたりすることに加え、作業の負担が軽くなるようになったという。興味を持ったことをまよふで祖父に、他に知り込んでいるものはないかと聞いてみた。すると、「スマート農業に関連する様々な先導技術はあるが、これまでの経験を生かして対応できるので、他には知り込んでいる」とのことだった。「スマート農業は、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。しかし、祖父は、自分たちに必要なものを選択して活用していた。これは、私たちが意識しなければならぬことだと思った。今後、身の回りには様々な先導技術がさらに普及していくだろう。私も祖父のように、目的に応じて適切な先導技術を活用していきたい。

【コメントの一部】

1 上野 他にどのような効果があるかを具体的に書いた方がよいのではないだろうか。

2 中村 私も同意です。スマート農業の効果を書き加えることで、小林さんが、自分の考えの裏付けとして書いているこの表現の内容が分りやすくなると思います。

【農林水産省のウェブページにある資料の一部】

スマート農業について

「農業」×「先導技術」＝「スマート農業」

「スマート農業」とは、「ロボット、AI、IoTなど先導技術を活用する農業」のこと。
 ⇒「生産現場の課題を先導技術で解決する」農業分野におけるSDG'sの実現

※100%自動化を実現する、クラウドが活用された農業社会の姿

スマート農業の効果

- ① 作業の自動化
ロボットトラクター、スマート灌漑システムなどの活用により、作業を自動化し人手を減くことが可能。
- ② 情報共有の促進化
衛星位置情報と気象観測データの活用により、作業の把握をデジタル化・自動化し、被害を減らすことも生産現場の安全につながる。
- ③ データの活用
ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データの活用により、農作物の生育や病害を予測し、適切な農事調整が可能。

(●問題2三 正答率 48.5%)

(●問題3一 正答率 52.2%)

- 9 -

(5) 中学校数学

＜集計結果＞

・以下の集計値は、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

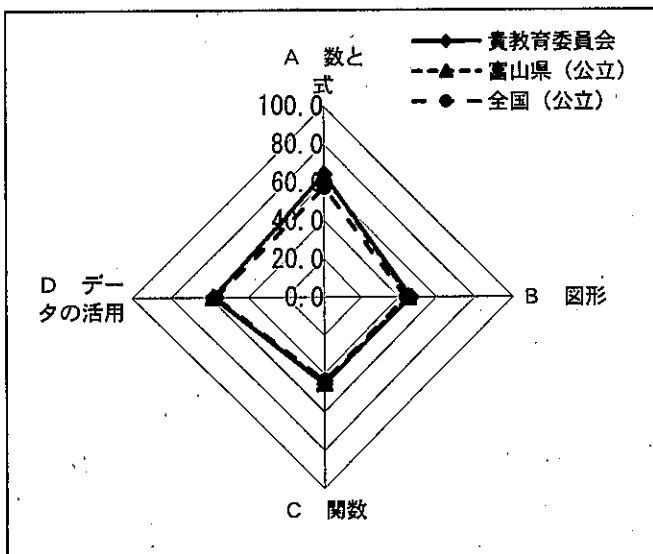
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
 ○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
 ■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
 ▲ 全国及び県を下回る領域・観点

※ ひとつの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

平均正答率 (%)	富山市	富山県	全国
	55	55	51.4

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率 (%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域	数と式	5	○ 64.1	64.3	57.4
	図形	3	◎ 46.2	45.0	43.6
	関数	3	◎ 45.6	45.1	43.6
	資料の活用	3	○ 58.2	58.4	57.1
評価の観点	知識・技能	9	◎ 64.7	64.6	59.9
	思考・判断・表現	5	◎ 37.7	37.1	36.2
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	◎ 55.7	55.1	52.6
	短答式	5	○ 71.9	72.2	65.7
	記述式	5	◎ 37.7	37.1	36.2

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



＜結果の概要＞

- 全国と平均正答率を比較すると、3.6ポイント上回っている。また、全ての領域や評価の観点、問題形式で全国を上回っている。
- 領域ごとの平均正答率は、「数と式」で6.7ポイント全国を上回っている。
- 観点ごとの平均正答率は、知識・技能で4.8ポイント全国を上回っている。
- 問題形式のうち、「選択式」の問題の平均正答率は55.7%、「記述式」の問題の平均正答率は、37.7%といずれも低い。

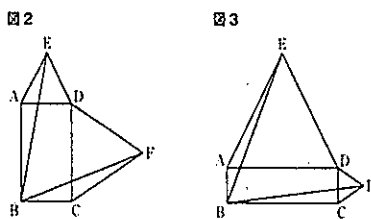
(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- 区分「数と式」の平均正答率が64.1%と4つの区分の中では最も高い。素因数分解をしたり、一元二次方程式を解いたりするなど、基本的な技能が身につけている。
- 区分「データの活用」では、「多数の観察や多回数の試行によって得られる確率の意味を理解しているかを問う問題」の正答率が84.4%であり、本調査の中で最も高かった。 (問題5)
- 区分「図形」の「三角形の合同を証明の根拠として用いられる三角形の合同条件を問う問題」では、平均正答率は全国と比べて2.8ポイント高い。 (問題9(1))
- 問題形式の中で「記述式」の5つの問題のうち3つの問題は、無解答率が20%以上と高く、記述式の問題に対する苦手意識がみられる。授業においても自分の考えを記述し、それを基にペアやグループで自分の考えを説明する機会を設けることで、話す側は筋道を立てて思考したことを相手の理解にあわせて説明したり、聞く側は相手の発表の不足している部分を質問して明確にしたりすることで論理的な思考を育成することにつながる。
- 区分「図形」の「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題」では、平均正答率が14.6%と全ての問題の中で最も低く、無回答率が37.0%と全ての問題の中で最も高い。角の大きさがいつでも 60° になることを証明するために、必要となることを筋道立て、証明する問題であった。生徒が発見し、確かめたことを互いに発表し合う場を設定することで、数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合い、論理的に考察し表現することのよさを実感できるようにすることが大切である。 (問題9(2))
- 区分「関数」の「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」では、正答率が37.2%低く、無解答率は23.2%と高い。授業の中でも日常や社会の事象を理想化したり、単純化したりして関数としてとらえ、事象の中にある数量の関係を関数として処理し、得られた結果を説明する活動を取り入れていくことが重要となる。 (問題8(2))

(2) 琴音さんは、次の図2や図3のように、21ページの図1の長方形ABCDの辺の長さをいろいろに変えた図をかきました。このときも、 $\triangle ABE \cong \triangle CBF$ が成り立つので、 $EB = BF$ がいます。琴音さんは、 $EB = BF$ 以外にも、辺や角についていえることがないか調べました。

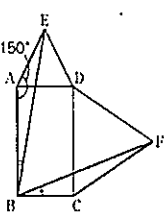


調べたことから、琴音さんは、長方形ABCDの辺の長さを変えても、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になると予想し、次のように考えました。

琴音さんの考え

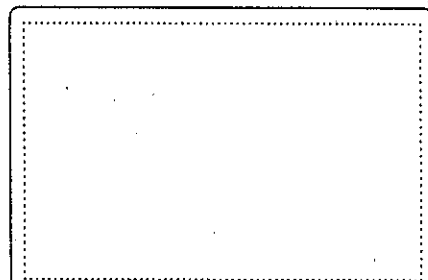
◇ $\angle EBF$ について、
 $\angle ABC = 90^\circ$ より、
 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ がいえれば、
 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ$ となり、
 $\angle EBF$ が 60° になることがいえる。

◇ $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることは、 $\triangle ABE \cong \triangle CBF$ からわかる等しい角と、
 $\angle EAB = 150^\circ$ を用いて示すことができる。



$\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ を示すことで、長方形ABCDの辺の長さを変えても、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることが説明できます。琴音さんの考えの◇にある $\triangle ABE \cong \triangle CBF$ と $\angle EAB = 150^\circ$ はすでにわかっていることとして、 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることを下の説明の□□□□に示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成しなさい。

説明



$\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることが示せたので、
 $\angle EBF = 90^\circ - (\angle ABE + \angle CBF)$ より、
 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ = 60^\circ$ になる

(●設問9(2) 正答率14.6%、無解答率37.0%)

(6) 中学校理科

<集計結果>

・以下の集計値は、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

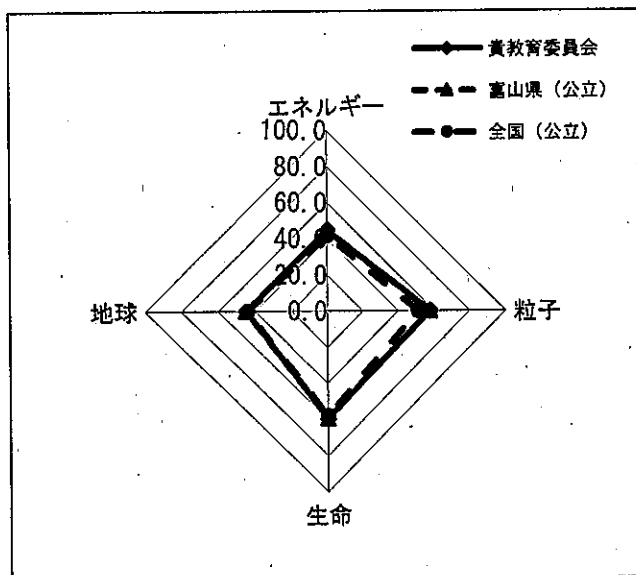
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
 ○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
 ■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
 ▲ 全国及び県を下回る領域・観点

※ ひとつの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

平均正答率 (%)	富山市	富山県	全国
	52	52	49.3

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率 (%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	6	◎ 44.8	44.6	41.9
	「粒子」を柱とする領域	5	◎ 57.6	57.6	50.9
	「生命」を柱とする領域	5	◎ 59.9	59.4	57.9
	「地球」を柱とする領域	6	○ 44.9	45.1	44.3
評価の観点	知識・技能	7	◎ 51.5	51.3	46.1
	思考・判断・表現	14	◎ 52.8	52.7	51.0
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	15	◎ 53.0	52.9	49.6
	短答式	1	◎ 25.8	25.7	24.8
	記述式	5	◎ 55.7	55.5	53.5

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 全国と平均正答率を比較すると、2.7ポイント上回っている。また、全ての領域、評価の観点、問題形式において全国を上回っている。
- 領域ごとの平均正答率は、「粒子」を柱とする領域で6.7ポイント全国を上回っている。
- 富山県の平均正答率と比較すると、「地球」を柱とする領域において0.2ポイント下回っている。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)


<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

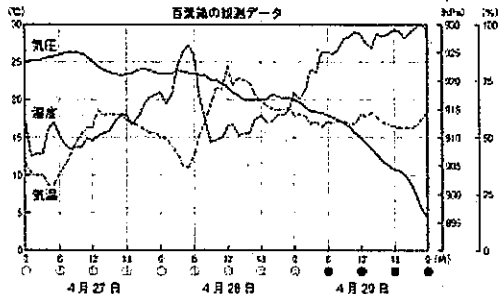
- 区分「エネルギー」を柱とする領域の「変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかをみる問題」は平均正答率が80.3%で、全ての問題の中で最も高く、全国を1.8ポイント上回っている。見いだした課題に対し、条件を制御した実験を計画して科学的に探究する学習を今後も継続したい。 (設問1(2))
- 区分「粒子」を柱とする領域の「状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる問題」は、平均正答率が53.5%で、全国を17.6ポイント上回っている。知識・技能を活用しながら身近な事象の状態変化の仕組みをとらえる力が身についている。 (設問7(1))
- 区分「地球」を柱とする領域の「天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる問題」は、平均正答率が37.0%であり、全国を3.8ポイント下回っている。Chrome Bookで撮影した空の画像、百様箱の観測データを天気図と関連づけながら、天気の変化を分析して解釈する場を十分に設定することで、実感を伴った理解へとつなげることが重要である。 (設問2(2))
- 区分「エネルギー」を柱とする領域の「力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかをみる問題」は、平均正答率が16.0%であり、全国より0.7ポイント上回っているものの、全ての問題の中で最も低い正答率であった。身近な道具に使われているばねを取り上げたり、実際に物体に力を加える実験を行ったりしながら、物体に働く力とつり合う力の関係について、それぞれの大きさや向きを言葉や矢印を使って説明する機会を大切にしたい。 (設問5(1))
- 問題形式が「記述式」の平均正答率は全国よりも2.2ポイント高いが、無問率は5問中2問で全国よりも高かった。観察、実験の結果等を基に自らの考えを導き出したり、探究の過程や方法を評価したりする場面において、ノートへの記述や話し合い活動等を通して表現する場を意図的、計画的に取り入れていく必要がある。

区別「エネルギー」を柱とする領域の「変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかをみる問題」

<4月27日13時 晴れ> <4月28日13時 くもり> <4月29日13時 雨>



百様箱の観測データ

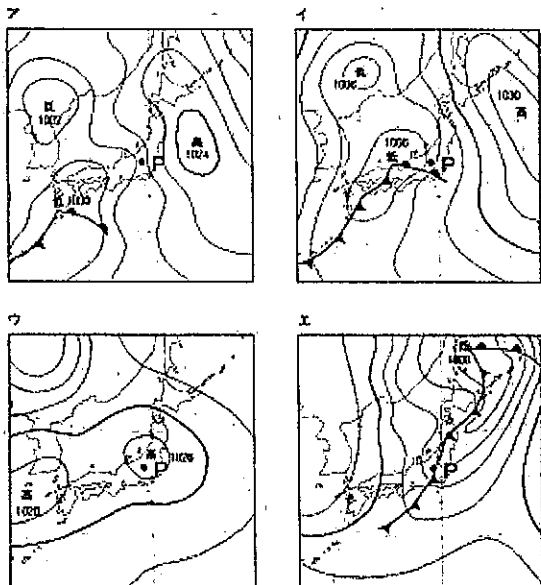


山本さん: 空の様子が変化して、天気が崩れてきました。

中村さん: 観測データの気圧も3日間上がり続けています。

海川先生: 空の様子の変化と観測データから、4月29日13時の気圧配列を考えましょう。

(2) 4月29日12時の天気図として最も適切なものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。



(●設問2(2) 正答率37.0%)

2 児童生徒質問紙調査の結果から

肯定的な回答：「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を足したもの 全国比：令和4年度本市と全国を比較したもの R3本市比：R3の本市の値と比較したもの ◎は今年度新しく掲載した質問

自尊感情等 全国比：令和4年度本市と全国を比較したもの R3本市比：R3の本市の値と比較したもの ◎は今年度新しく掲載した質問

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	R3本市比	考察
1 自分には、よいところがあると思う	小	80.2%	+0.9	+4.7	1 「自分には、よいところがあると思う」児童生徒の割合は昨年度より上昇している。今後も子どもが自分のよさを実感し、自分をさらに高めていけるよう、日頃から児童生徒の取り組む姿勢や努力の過程を認め励ますことで、自尊感情を高めていきたい。 2 「将来の夢や目標をもっている」児童生徒の割合は昨年度とほぼ同じである。児童生徒が将来への見通しをもち、自己実現を図ることができるよう、系統的な指導計画を作成し、キャリア教育等を充実させることが大切である。
	中	80.3%	+1.8	+2.4	
2 将来の夢や目標をもっている	小	77.8%	-2.0	+1.0	
	中	63.5%	-3.8	-0.9	
3 人の役に立つ人間になりたい	小	95.6%	+0.5	-0.2	
	中	95.3%	+0.3	+0.5	

規範意識

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	R3本市比	考察
4 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	小	96.6%	-0.2	+0.1	4 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合は昨年度とほぼ同じである。今後も共感的な人間関係となるような教育活動を展開できるよう、学級活動や道徳の授業等を充実させる。また、自他を尊重する態度をばぐくむとともに、相手の立場に立って物事をとらえる機会を創出することで、互いを認め合う気持ちを継続して高めていく必要がある。
	中	96.5%	+0.1	+0.2	

授業での活動

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	R3本市比	考察
5 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	小	80.3%	+0.2	+0.7	5, 6, 7 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている」「課題の解決へ向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う」児童の割合は昨年度とほぼ同じであるが、生徒の割合は昨年度より低下している。本市が重点課題としている「主体性のある児童生徒の育成」を目指し、児童生徒が主体的に問題発見・解決型学習（PBL）に取り組める授業を計画的に実践する。また、小学校で得た学びが途切れることなく中学校へ引き継がれるよう、小中接続を意識した授業を構想する。さらに、個の「見方・考え方」を深めるために、協働的な活動を取り入れた学習を目指していく必要がある。
	中	73.2%	-5.5	-3.0	
6 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う	小	77.2%	-0.1	-1.8	
	中	77.1%	-2.1	-4.8	
7 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う	小	78.1%	+5.4	+0.7	
	中	77.6%	+5.5	-4.9	

家庭学習

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 3 本市比	考 察
8	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1時間以上勉強をしている	小	55.3%	-4.1	-5.4	8 「学校の授業時間以外に、普段1時間以上勉強している」児童生徒の割合は昨年度よりも低下しており、家庭学習の習慣が定着していないことが示されている。 <u>授業における振り返りの時間を確実に確保し、自分の学習状況を自覚させることで、家庭学習につなげるなどの取り組みが重要である。</u> 10 「平日に30分以上スマートフォンやコンピュータなどのICTを勉強のために使っている」児童の割合は昨年度より上昇したが、生徒の割合は昨年度より低下している。今後は、 <u>授業において一人1台端末等の効果的な活用法を定着させるとともに、家庭学習における活用事例を共有することなどが大切である。</u>
		中	66.3%	-3.2	-6.3	
9	普段（月～金曜日）、家や図書館で30分以上読書をしている	小	39.5%	+3.1	-1.1	
		中	28.0%	+0.7	-1.1	
10	普段（月～金曜日）、30分以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を勉強のために使っている。	小	50.9%	+7.1	+6.0	
		中	41.6%	+0.8	-5.2	

家庭での生活

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 3 本市比	考 察
11	朝食を毎日食べている	小	95.1%	+0.7	-0.3	13, 14 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」児童生徒の割合は昨年度より低下している。「SNSや動画視聴をする時間が1時間より少ない」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。 <u>今後も継続して、児童生徒が自身の家庭での過ごし方を見直し課題を見つけるとともに、児童生徒にノーマディアデーを企画される等、児童生徒の自治的な活動を促したい。また、保護者と連携し、規則正しい生活習慣の確立、維持に向けて、取り組んでいくことが大切である。</u>
		中	92.9%	+1.0	-1.5	
12	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	小	80.2%	-1.3	+2.1	
		中	81.2%	+1.3	+1.3	
13	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている	小	75.5%	+4.0	-1.5	
		中	68.1%	-1.4	-4.4	
◎ 14	普段（月～金曜日）、SNSや動画視聴をする時間が1時間より少ない	小	48.1%	-1.1	-	
		中	21.6%	-2.5	-	

地域や社会に対する興味・関心

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 3 本市比	考 察
15	今住んでいる地域の行事に参加している	小	70.6%	+17.6	-4.4	15 「地域の行事に参加している」児童生徒の割合は昨年度より低下している。 <u>コミュニティスクールの機能を生かし、地域人材を効果的に活用した地域交流を行うなど、児童生徒が地域の中で育ち、社会の中で自分らしく生きていく姿勢を育てていく必要がある。</u> 16 「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある」児童の割合は全国よりやや高いが、生徒の割合は全国とほぼ同じである。 <u>校外学習の計画を立てる際などに自然の中に身を置き、心を癒やし、楽しめる場と機会を創出することを心がけたい。</u>
		中	51.1%	+11.1	-2.3	
◎ 16	自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある	小	70.0%	+4.9	-	
		中	54.7%	-0.3	-	

3 学校質問紙調査の結果から

肯定的な回答：「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等を足したもの 全国比：令和4年度本市と全国を比較したもの

R3比：本市令和4年度と令和3年度を比較したもの ○は今年度新しく掲載した質問

児童・生徒指導等

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R3比	考察
1	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした	小	67.7%	-16.9	+1.0	1, 3 「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導」について、肯定的な回答の割合は全国と比べ小学校はかなり低く、中学校は低い。日頃から児童生徒を観察し、一人一人のよさを見つけ、そのよさを伸長する活動を取り入れ、自信をもたせることが大切である。また、働く人を講師に招いて話を聞くなどの活動を通してキャリア教育を充実する必要がある。
		中	92.3%	-6.2	-4.0	
2	授業中の私語が少なく、落ち着いている	小	78.5%	-8.7	-10.9	
		中	96.1%	+0.5	+1.5	
3	児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った	小	98.5%	-0.2	+0.1	
		中	96.2%	-1.9	-3.8	

学校運営に関する状況

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R3比	考察
4	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している	小	93.8%	-0.4	+8.9	4, 5 「PDCAサイクルの確立」について、肯定的な回答の割合は、全国と比べ小学校はほぼ同じで、中学校はやや高い。昨年度調査よりも改善が見られ、各学校においてRG-PDCAサイクルが定着してきている様子がうかがえる。ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)について、小学校はやや低く、中学校は高い。欠席連絡やアンケートのデジタル化を推進するなど、身近なことからICTを活用することで業務を効率的に行っていくことが重要である。
		中	96.2%	+2.9	+7.3	
◎5	ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいる。	小	92.2%	-2.8	-	
		中	100%	+3.6	-	

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R3比	考察
6	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている	小	80.0%	-7.2	-7.8	8, 9 「課題の解決に向けて自分で考え、取り組む」ことについて、肯定的な解答の割合は、全国と比べ小学校では低く、中学校ではかなり低い。「学級活動における意志決定」について、肯定的な回答の割合は、全国と比べ、小学校はやや低く、中学校は低い。教科や特別活動において、児童生徒が自らの学びを振り返り、課題を設定し、解決方法を吟味し、実際に取り組む機会を教育課程に位置づけることが、児童生徒の主体性をはぐくむことにつながる。
		中	76.9%	-11	+2.8	
7	学級活動の授業を通して今努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている	小	87.7%	-4.9	+1.3	
		中	84.6%	-7.1	-8	
8	特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている	小	89.3%	-7.7	-4.6	
		中	92.3%	-0.5	-7.7	

特別支援教育

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R3比	考 察
9	特別支援教育について理解し、授業の中で、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った	小	78.5%	-15.8	-4.8	11 「特別支援教育」について、肯定的な回答の割合は、全国と比べ小学校はかなり低く、中学校は低い。本人の特性や教育的ニーズをとらえ、一人一人に応じた支援の在り方について校内で共通理解を図り、適切な支援や合理的配慮を行う必要がある。また、充実した校内支援を継続していくためには、特別支援コーディネーターを中心とした組織づくりが重要である。
		中	84.7%	-8.1	-4.2	

小学校教育と中学校教育の連携

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R3比	考 察
10	近隣等の小（中）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取り組みを行った	小	27.7%	-25	-12.1	12 「小・中学校の連携」について、肯定的な回答の割合は、全国と比べ小学校はかなり低く、中学校はほぼ同じである。小・中学校の連携の機会を確保するために、家庭学習強化週間の取り組みを合同で行ったり、特定の教科の授業研究を一緒に行ったりするなど、ともに取り組むことが大切である。
		中	61.6%	+0.5	+17.2	

ICTの活用

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R3比	考 察
◎ 11	一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業でどの程度活用した	小	92.3%	+7.2	-	13, 14 小・中学校ともにICT機器を「どの程度活用した」ことについて、肯定的な解答の割合は、全国と比べ、高い。「自分の考えをまとめ、発表する場面でのどの程度活用した」ことについて、小学校は低く、中学校はほぼ同じである。ICT機器の効果的な使い方（調べる場面、まとめて発表・表現する場面等）について、研究を進めていくことが重要である。
		中	88.5%	+7.3	-	
◎ 12	自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用した	小	30.7%	-9.2	-	
		中	42.3%	+0.6	-	

調査結果の活用

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R3比	考 察
13	令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した	小	90.8%	-5.1	-1.6	15, 16 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を「学校全体で教育活動を改善するためにどの程度活用した」ことについて、肯定的な解答の割合は、全国と比べ、小学校は低く、中学校はかなり低い。「近隣の小中学校と成果や課題を共有した」ことについて、肯定的な解答の割合は、全国と比べ、小・中学校ともかなり低い。全国学力・学習状況調査の成果や課題を学校全体や小中学校で共有しながら、授業改善に取り組んでいくことが必要である。
		中	78.5%	-14.2	+8.1	
◎ 14	令和3年度全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有した	小	16.9%	-27.6	-	
		中	11.5%	-36.1	-	

V 今後の取り組み

1 調査結果の取り扱い

市教育委員会では、平成19年度から令和4年度までに実施された12回の「悉皆調査」と2回の「抽出調査」において、現状に即した教育に努めるため調査結果を公表してきた。

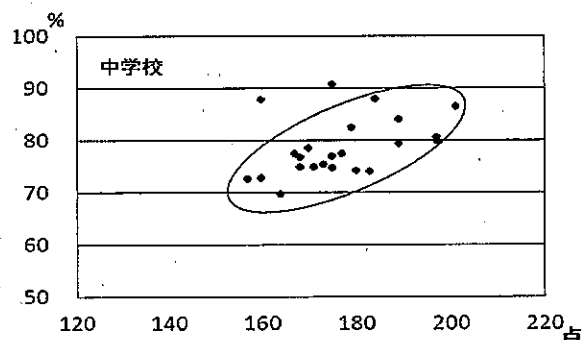
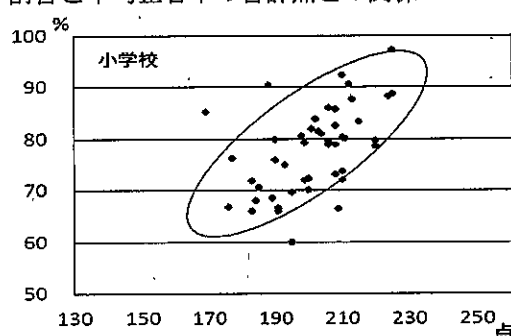
今年度の調査結果を分析することより富山市における課題を明らかにし、今後の授業改善に向けた指導のポイントについて提案する。また、各学校では、本調査の結果を詳細に分析し、学校全体の学力・学習状況の傾向や自校の課題について、全教職員で共有することが大切である。分析するに当たり、数値のみにとらわれず、児童生徒の個々の学力状況や日ごろの学習の様子と学力調査等の分析結果を結びつけ、多面的、総合的に課題を明らかにして、日常の授業を改善していくものとする。

2 教科に関する調査と児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の関連

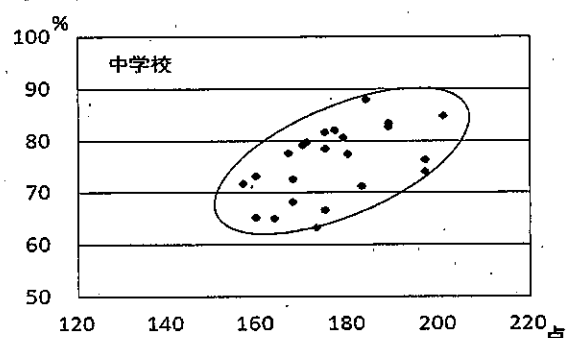
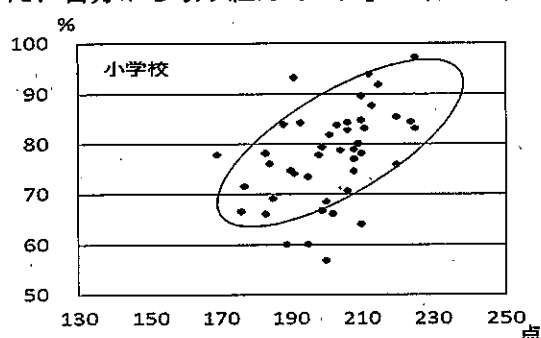
1) 学校ごとの平均正答率の合計と児童生徒質問紙の回答状況との相関関係

① 「問題解決的な学習」及び「非認知能力」に関すること

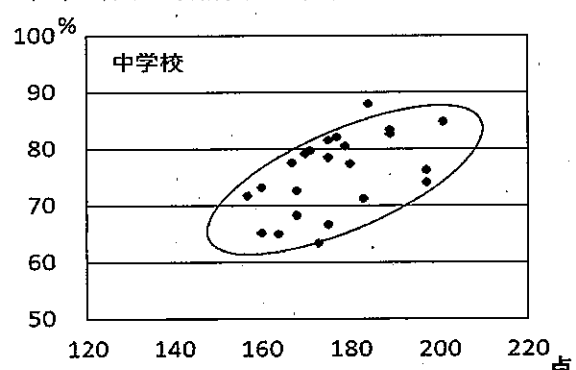
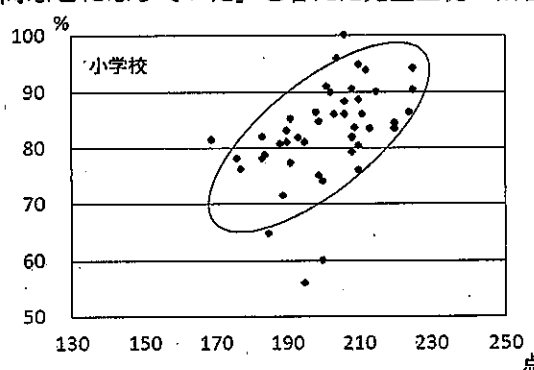
- 児童生徒質問紙 17 (17) 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



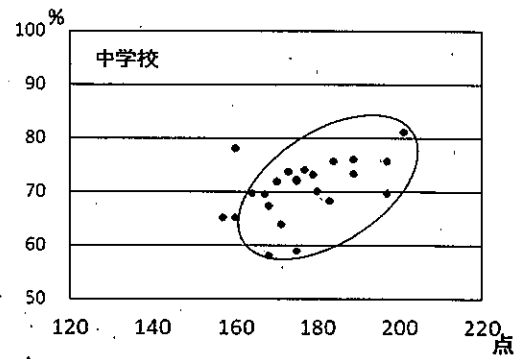
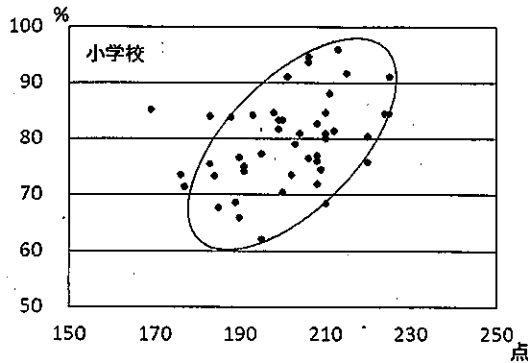
- 児童生徒質問紙 39 (39) 「昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



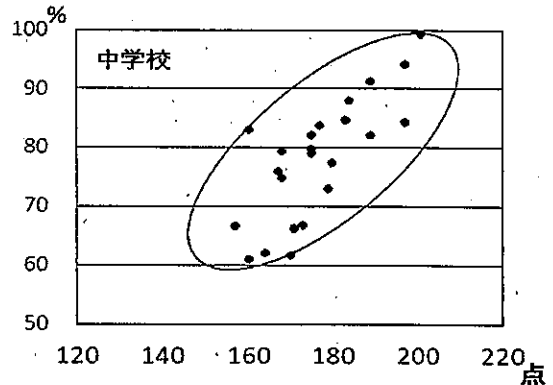
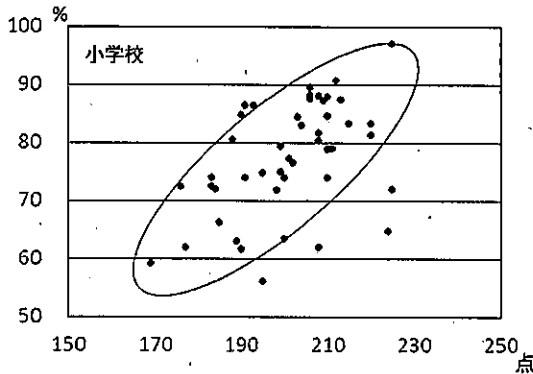
- 児童生徒質問紙 42 (42) 「昨年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



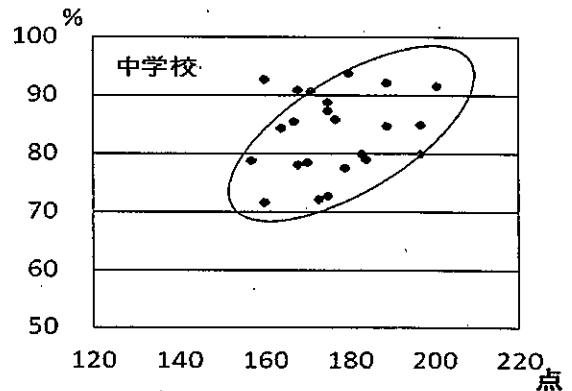
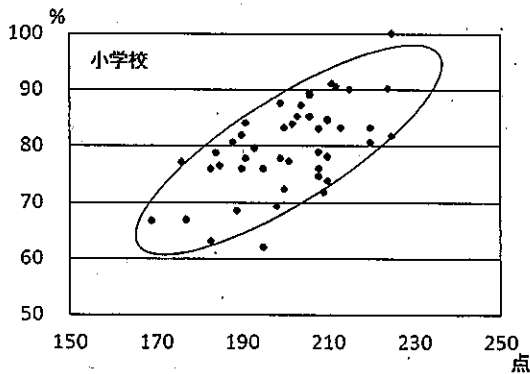
- 児童生徒質問紙 44 (44) 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



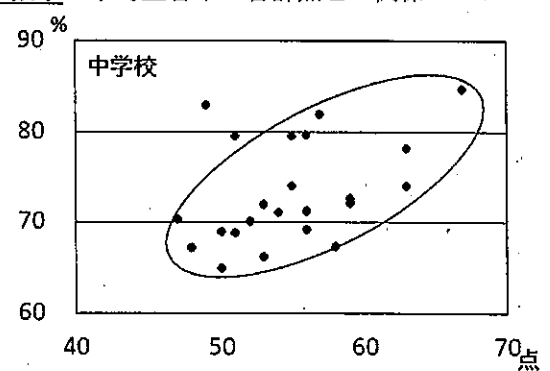
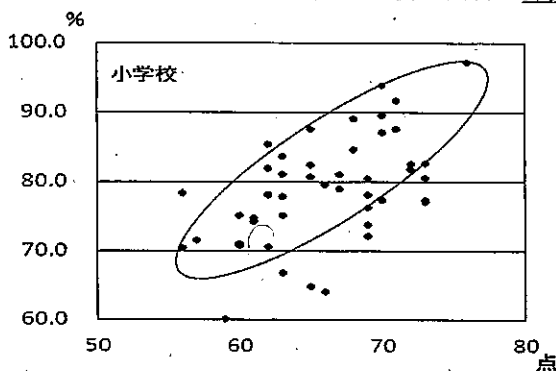
- 児童生徒質問紙 45 (45) 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



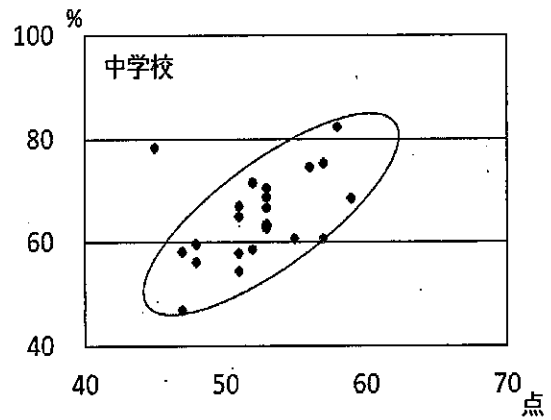
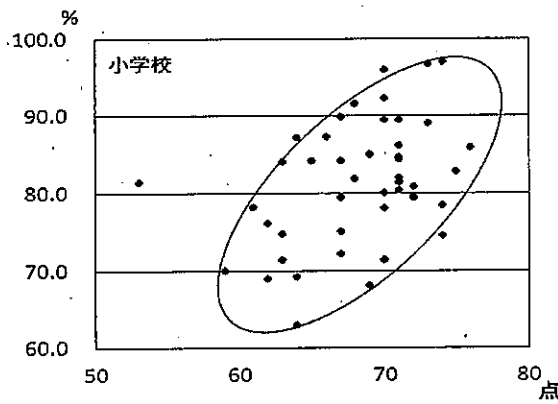
- 児童生徒質問紙 46 (46) 「自分の学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



- 児童質問紙 58 (58) 「算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」と答えた児童生徒の割合と算数・数学の平均正答率の合計点との関係

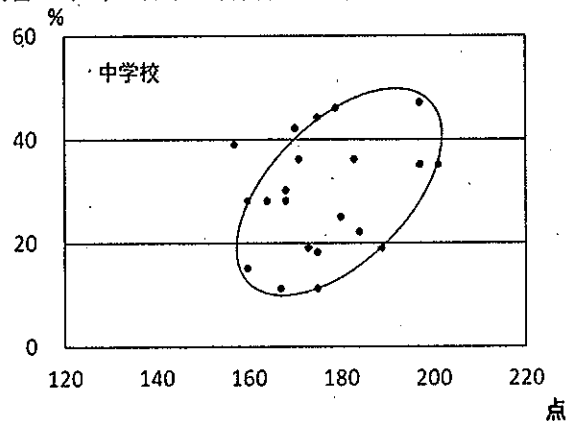
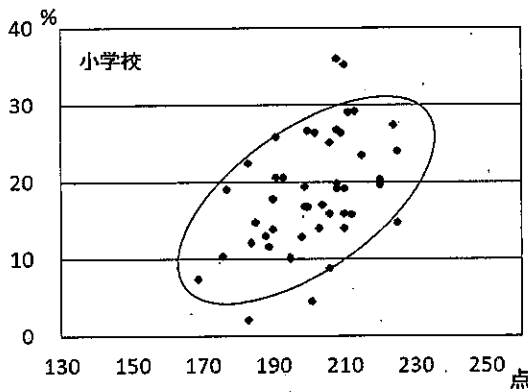


○ 児童生徒質問紙 67 (67) 「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」と答えた生徒の割合と理科の平均正答率の合計点との関係

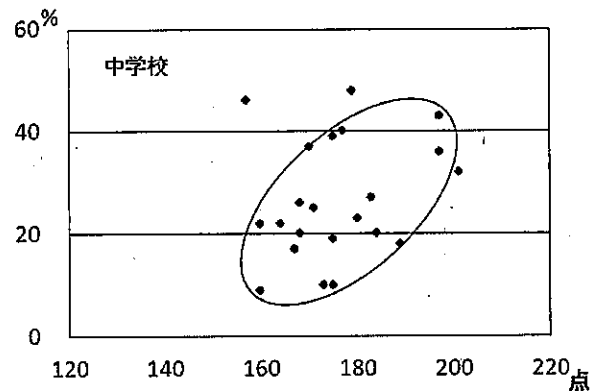
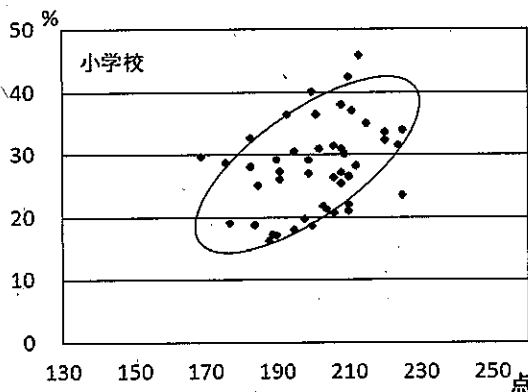


② 「家庭での過ごし方」に関すること

○ 児童生徒質問紙 5 (5) 「普段 (月曜日から金曜日)、1日当たり、テレビゲーム (コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む) をする時間が1時間より少ない・全くしない」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



○ 児童生徒質問紙 6 (6) 「普段 (月曜日から金曜日)、1日当たり携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをするのは1時間以内」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



<データの取り扱いについて>

※ 児童生徒質問紙の分析は、データの正確性を優先し、児童生徒数が20名以上の学校を対象とした。

※ 相関係数が0.3以上の場合は、図に楕円の○を書き入れ、相関の特徴を表している。

※ () 内は、中学校の生徒質問紙の番号を表している。

以上の結果から、次の3点の内容が平均正答率に影響があると推察できた。

- ＜本市における授業改善に向けた指導の重点—令和4年度の全国学力・学習状況調査から—＞
- 1 「問題解決的な学習」の充実 —児童生徒が自ら解決したい問いを決め、解決のために試行錯誤を繰り返し、結果を考察し表現するための手立て—
 - 2 「非認知能力の育成」 —粘り強く取り組む力、仲間と協働する力をはぐくむ—
 - 3 「家庭でのくらし」の充実 —生活においても目的意識をもつ—

これらの3点については、これまでも各学校において取り組んできたが、今後も引き続き授業改善に向けた工夫を考え、継続して取り組んでいく必要がある。

2) 学校質問紙の各質問項目における平均正答率からみた3教科合計ポイントの平均以下に、平均正答率と相関関係があった児童生徒質問紙の項目に関連した学校質問紙の項目の一部を挙げた。

質問事項	回答			
	上段：平均正答率からみた3教科合計ポイント平均	下段：回答学校数	□よく行った	□どちらかといえば行った
(9) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた	202点 39校		190 50	
(20) 児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている	204 21	194 48	188 21	
(28) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした	205 25	192 57	186 8	
(29) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	205 24	190 55	196 10	
(33) 調査対象学年の児童生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている	199 29	194 56	177 5	
(35) 調査対象学年の児童生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている	207 19	193 60	183 11	
(48) 調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していた	205 27	193 54	172 8	
(52・51) 調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行った	200 27	196 52	178 10	
(77・75) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた	198 37	193 51		
(78・76) 調査対象学年の児童生徒の保護者に対して、前年度までに、児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った	195 27	195 42		

※回答学校数が5校未満の項目の数字は省く。 0% 20% 40% 60% 80% 100%

3 授業改善に向けた指導の重点

児童生徒質問紙においては、国語科や算数・数学科、理科、総合的な学習の時間に関して、

- 「自分の考えをもち自分と違う意見について理解ある児童生徒」
- 「学習に意義を見だし、課題解決に向けて粘り強く取り組む児童生徒」

と平均正答率に正の相関があるという結果がみられた。

一方で、国語科の「文章を書く問題」、算数・数学科の「理由を記述する問題」など、記述式の問題において正答率が低く、無解答率が高かった。富山市におけるこの傾向は続いており、改善の必要がある。

また、今回の調査における平均正答率と、テレビゲームや携帯電話、スマートフォンなどで、ゲームをしたりSNSや動画視聴をしたりする時間について、時間が長くなれば負の相関、短くなれば正の相関があるという結果もみられた。コロナ禍によって家庭で過ごす時間が長くなり、長時間のテレビゲームや動画視聴、SNSなどによる児童生徒への影響が顕著になってきており、家庭での過ごし方を見直す必要がある。

令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果から、本市における授業改善に向けた指導の重点としてP21に挙げた3点について述べていく。

- ＜本市における授業改善に向けた指導の重点—令和4年度の全国学力・学習状況調査から—＞
- 1 「問題解決的な学習」の充実 —児童生徒が自ら解決したい問いを決め、解決のために試行錯誤を繰り返し、結果を考察し表現するための手立て—
 - 2 「非認知能力の育成」 —粘り強く取り組む力、仲間と協働する力をはぐくむ—
 - 3 「家庭でのくらし」の充実 —生活においても目的意識をもつ—

① 「問題解決的な学習」の充実—児童生徒が自ら解決したい問いを決め、解決のために試行錯誤を繰り返し、結果を考察し表現するための手立て—

教師がテーマを提示し、子どもたちがそのテーマを基に自ら解決したい問いを決め、解決のための計画を立て、情報収集を行い、必要な実践の後、結果を考察し発表するといった一連の活動に取り組む問題解決的な学習、いわゆるPBL（ProjectまたはProblem Based Learning）の充実を図ることが重要である。

富山市学校教育指導方針のP.12「学習指導」における「問題解決的な学習の展開」では、次のように示している。

2 問題解決的な学習の展開

- (1) 子どもにとって必要感や切実感のある学習課題が設定できるような教材の提示方法等を工夫する。

実践例 小学校...学期に一単元程度、問題解決的な学習の充実を図る。

中学校...単元や1時間の学習の導入時に課題やその提示の仕方について工夫をする。

問題解決的な学習を授業で行うためには、教科横断的なカリキュラム・マネジメントの実践が不可欠である。育てたい子どもの姿を明確にし、実態に応じた教育課程を編成していく。そのために、教科や総合的な学習の時間、特別活動の連携、教科で取り扱う内容や行事の精選に取り組んでいきたい。そこには、教師が各教科等の内容や系統を理解し、資質・能力の育成のために必要なことを見極めることが大切である。

そして、問題解決的な学習を進める中で、情報を収集する際や情報を整理・分析する際に、児童生徒が自分の考えを構築するための具体的な道筋を、教師がスモール・ステップで明確化して伝えることが有効である。「今、どこまでできているのか」「困っていることが何なのか」「どのように追究していこうと思っているのか」など、教師が個別の声かけを丁寧に行い、自分の学習の状況をメタ認知し自覚的に安心して学習できる環境を創ることも大切である。

以上のように、児童生徒の実態を捉えて計画を立て、適切な支援を継続して行うことが、児童生徒の力を高めていくと考えられる。

(ア) 児童生徒が自ら解決したい問いを決めるための手立て

① 「疑問を感じる種をまく」

- ・ 様々な場面において「どうして?」「なぜ?」と疑問をもつことができるよう、教師が日ごろから「はてな」を投げかけていく。

例) 雲は水滴のはずなのに、なぜ空に浮かんで見えるの? など

- ・ 自分の気になっていることが何なのか、自覚する。

例) イメージマップの活用、継続的な振り返り 等

② 「解決したくなる課題で学習を展開する」

- ・ 児童生徒の実態に合わせ、広がりをもてるテーマを選定する。

例) 社会科・総合「みんなで造る公園」 等

- ・ 切実感がある内容を設定する。

例) 家庭科「暑い夏を乗り切る作戦」等 (指導方針 電子データ1-1他)

(イ) 児童生徒が解決のために試行錯誤を繰り返すための手立て

① 「失敗を受け入れられる集団づくり」

児童生徒質問紙で「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と回答した児童生徒は、小6が74.7% (全国72.5%)、中3で67.1% (全国67.1%) であった。児童生徒が失敗を恐れずに挑戦するには、自己肯定感から自己有用感につながる背景が重要である。「指導方針 P.11 学年・学級経営「主体性のある子どもを育成する学年・学級経営」における重点の中でも、次のポイントに着目したい。

- ・ 児童生徒が、他者と協力して活動する楽しさや成就感を味わうことができるような場や機会を設定する。

- ・結果だけではなく、取り組みのプロセスを認める言葉かけをし、進んで取り組んでいこうとする意欲を引き出す。
- ・「どのように学ぶか」の視点から、児童生徒自身が進んで取り組もうとする学習過程の改善、学級活動の活性化を図る。
- ・学級活動等の話合いで、学年・学級目標を設定し、それを実現するための年間の諸活動を子どもと共に確認する。

例) 「みんなが気持ちよく過ごせる学級・学校づくり」指導方針 P. 47

② 『自分が動けば何かが変わる』経験をさせる

児童生徒を「持続可能な社会の創り手」へと育て上げるために、新しいものを創り上げたり今まであったものごとを変化させたりする経験が必要である。知識としてだけでなく、参画してみても失敗も成功もあるような、実感を伴う体験が望ましい。

- ・教科における実験・体験活動

例) 生活科「つくってあそぼう おきにいりのこま」指導方針 P. 33

- ・児童会・生徒会活動におけるプロジェクト

例) 生徒会活動「みんなが着たくなる制服」等

- ・コミュニティ・スクールを活用し地域にはたらきかける活動

例) 総合「ブラいたち」指導方針 P. 48

(ウ) 児童生徒が結果を考察し表現するための手立て

小学校・中学校ともに国語科の「文章を書く問題」、算数・数学科の「理由を記述する問題」において正答率が低く、無解答率が高かった。富山市におけるこの傾向は続いており、改善の必要がある。児童生徒の「書く力」を向上させるためには、豊かな体験学習を設定するなど、児童生徒が書きたくなる気持ちを高める環境を整えることが必要である。

また、指導方針 P. 3 のように、問題解決的な学習では「まとめ・表現する」場面を設け、次の活動へつなげていくことが重要である。それぞれの児童生徒が「何が分かったのか」をまとめ、「何を伝えたいか」を考える場を保障し、その内容や技能に合ったツール（ノート、紙、Chromebook、ホワイトボード等）や方法（文章、図絵、プレゼンテーション等）を選ぶことができるような工夫も有効である。

教師から一方的に与えるのではなく、児童生徒が自己決定して表現できるようにしていきたい。

② 「非認知能力」の育成 - 粘り強く取り組む力、仲間と協働する力を育む -

非認知能力は、幼児期後半から、「自分で決定したことを実行する」「成功体験や失敗体験を積み重ねる」「仲間と協働的に活動する」などを通して獲得されていくと言わ

れる。教師は、これらの力を、日常の授業の中でもはぐくんでいくという意識をもつことが大切である。

子どもは、体験したことを自らの内面で経験に変え、その経験を振り返ることで学び、そして多様な能力を獲得・向上させる。その繰り返しのPDCAサイクルを回していくことが大切である。そこで重要なのが「振り返り」である。


指導方針・電子データ1-4には、学習のまとめと振り返りについてポイントを挙げてある。学習内容を確認する

「まとめ」とは異なり、「振り返り」は自分自身の学びを客観し、内面に働きかけるものである。

「振り返り」によって新たな疑問や次への見通しをもつことができる。

児童生徒が取り組みやすいように視点として「分かったこと」「新たな疑問」「さらに考えたいこと」を与えるなど、工夫をしていく。

まとめとは、今日の1時間の学習内容の確認です。板書で、本時の子どもの発言を生かしながら整理することが大切です。



振り返りでは、本時の学習で理解できたことと、まだ理解できていないことを整理することが重要です。「理解できていないこと」は、家庭学習につなぐことや次の課題にするなど、学びの進捗性を意識した授業評価とつながるようにしましょう。また、そのことをとおして、自分向上したことや学びのよさを子ども自身が客観視できるようにしましょう。

まとめと振り返りを区別することが大切です。

	まとめ (学習内容を確認する)	振り返り (学びを客観視する)
<p>学習したことをまとめる</p> <p>振り返りをノートに書く</p> <p>家庭学習や次の時の見通しをもつ</p>	<p>教師の言葉のかけ方</p> <p>子どものノート</p>	<p>友達の発表を聞いて、「分かったこと」や「新たな疑問」「さらに考えたいこと」を、ノートに書きましょう。</p> <p>どの考えも前に習った長方形の面積の公式を使っていた。前に学習したことを生かして考えると早くことができました。</p> <p>違う図形の面積もかおりさんの考えで求められるのかを知りたいのでやってみたいと思いました。</p>

*【授業のいろは】市教委 参照 全校公開フォルダ内資料及び市教七日P教育アーケベース掲載

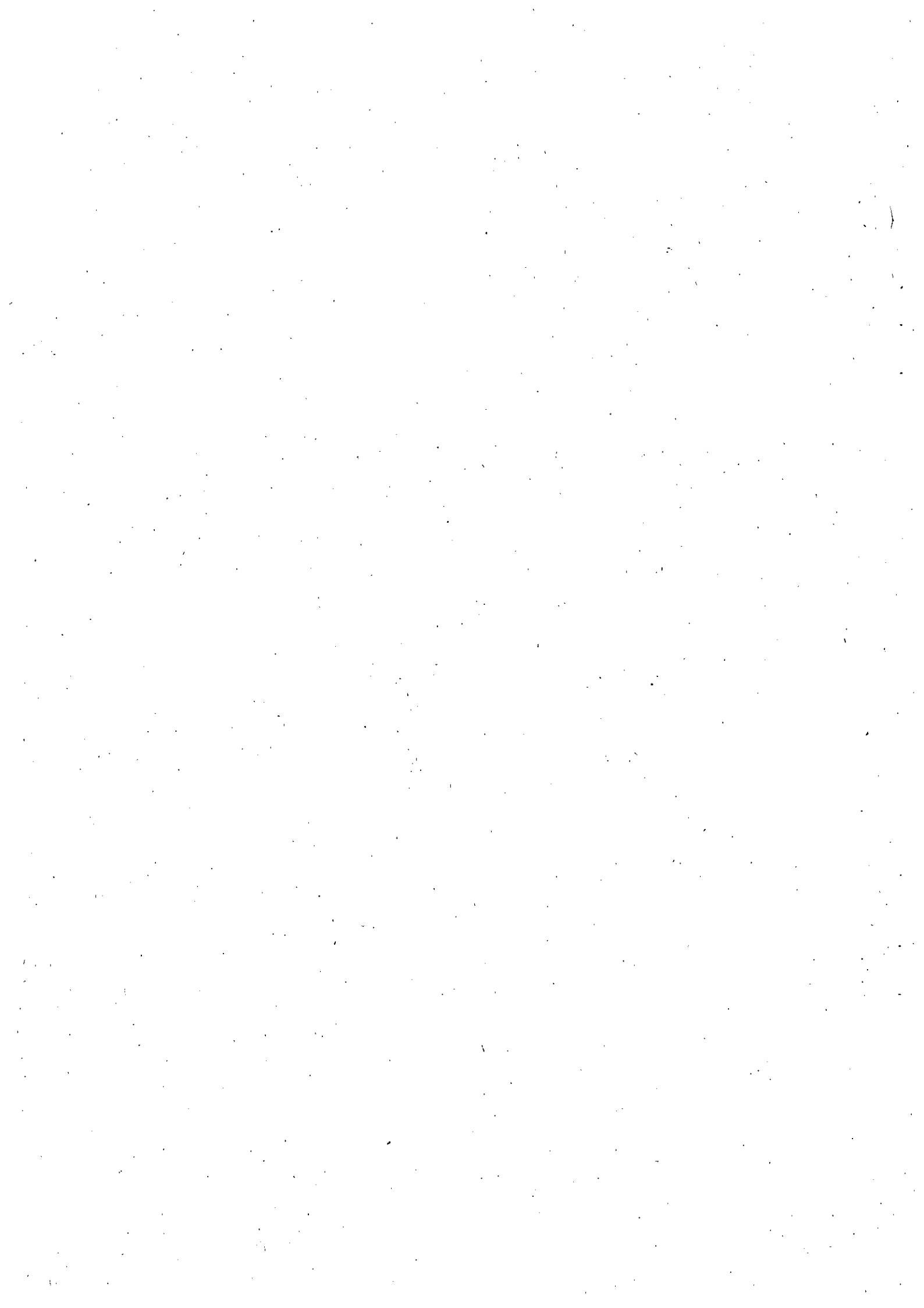
③ 「家庭での暮らし」の充実 -生活においても目的意識をもつ-

学校の授業と家庭学習に連続性をもたせることで、更なる学力の向上が期待できると考えられる。その際、学校と家庭が連携し、児童生徒の興味関心をとらえて、課題意識をもたせる働きかけを行うことが大切である。家庭学習が充実している学校では、次のような手立てがとられている。

- 学校と家庭が協力して、メディアの利用時間を児童生徒が自らコントロールできるような働きかけをしたり、約束事を決めたりする (小・中学校)
- 授業で見つけた課題や目的を、家庭生活においても意識して過ごし、それを達成するために自分自身の生活を振り返る習慣を身につける (小学校)
- 授業では、課題解決に向けて、自分自身で、あるいは他者と協力して考え、情報を集め、整理し発表するなどの学習を行うことで、家庭でも主体的に問題解決を図り、自主的に学習しようとする (中学校)

以上のような、工夫をすることにより、学ぶことの意義を味わうことができ、結果として学力の向上につながっていくと考えられる。各学校の実態に応じ、家庭学習の充実に向けての方策を考えていくことが必要である。

授業改善に向けた指導の重点を述べてきたが、平均正答率が高い学校に共通していることのひとつとして、研修会等で学校の課題を的確にとらえて解決策を教職員が共通理解し、継続して取り組んでいる様子が見取れる。このような学校全体で継続的な取り組みをしている学校の雰囲気が児童生徒の学力向上に繋がっていると考えられる。



〈資料〉

- 1 全国学力・学習状況調査
富山市と全国、県との平均正答率の比較
- 2 小学校6年生 設問別結果一覧
- 3 中学校3年生 設問別結果一覧
- 4 児童生徒質問紙調査
- 5 学校質問紙調査

全国学力・学習状況調査 富山市と全国、県との平均正答率の比較 (H19～R4)

・H19、20、21、25、26、27、28、29、30、31、R3：対象学年全員参加方式で実施。
 ・H22、24：抽出方式で実施。(抽出方式のため、全国及び県の値は中央値で示す。)
 ・H23：未実施。

※ 平成28年度より、整数値で公表(平成29年度からは、文部科学省から届く市・県の調査結果が整数値)

【小学校6年生】

		国語 A										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	83.9	68.1	72.1	85.3	83.6	62.7	74.2	72.1	75	79	75
	市一全国	2.2	2.7	2.2	1.8	2.0	0.0	1.3	2.1	2	4	4
	市一県	0.0	-0.7	-0.3	0.2	0.1	-1.1	0.1	-0.8	0	1	1
	富山県	83.9	68.8	72.4	85.1	83.5	63.8	74.1	72.9	75	78	74
	県一全国	2.2	3.4	2.5	1.6	1.9	1.1	1.2	2.9	2	3	3
	全国	81.7	65.4	69.9	83.5	81.6	62.7	72.9	70.0	73	75	71

		国語 B										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	68.0	54.6	51.3	79.3	61.3	50.9	60.2	70.2	62	62	60
	市一全国	4.0	4.1	0.8	1.5	5.7	1.5	4.7	4.8	4	4	5
	市一県	0.0	0.3	-0.4	0.8	0.9	0.2	0.7	0.1	1	2	2
	富山県	66.0	54.3	51.7	78.5	60.4	50.7	59.5	70.1	61	60	58
	県一全国	4.0	3.8	1.2	0.7	4.8	1.3	4.0	4.7	3	2	3
	全国	62.0	50.5	50.5	77.8	55.6	49.4	55.5	65.4	58	58	55

国語		
H31	R3	R4
70	66	67
6	1	1
2	-1	0
68	67	67
4	2	1
64	65	66

		算数 A										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	86.3	76.1	80.4	77.0	77.0	79.7	81.7	79.0	81	84	68
	市一全国	4.2	3.9	1.7	2.8	3.7	2.5	3.6	3.8	3	5	4
	市一県	0.5	0.1	-0.1	0.9	0.5	0.0	0.7	0.5	0	2	2
	富山県	85.8	76.0	80.5	76.1	76.5	79.7	81.0	78.5	81	82	66
	県一全国	3.7	3.8	1.8	1.9	3.2	2.5	2.9	3.3	3	3	2
	全国	82.1	72.2	78.7	74.2	73.3	77.2	78.1	75.2	78	79	64

		算数 B										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	67.1	55.7	56.6	51.4	62.0	60.8	62.8	47.7	53	49	57
	市一全国	3.5	4.1	1.8	2.1	3.1	2.4	4.6	2.7	6	3	5
	市一県	0.7	0.6	-0.2	0.9	0.7	0.4	0.8	0.2	2	2	2
	富山県	66.4	55.1	56.8	50.5	61.3	60.4	62.0	47.5	51	47	55
	県一全国	2.8	3.5	2.0	1.2	2.4	2.0	3.8	2.5	4	1	3
	全国	63.6	51.6	54.8	49.3	58.9	58.4	58.2	45.0	47	46	52

算数		
H31	R3	R4
70	73	66
3	3	3
1	0	0
69	73	66
2	3	3
67	70	63

【中学校3年生】

		国語 A										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	84.6	77.7	82.1	79.4	78.1	79.2	82.3	79.1	78	80	78
	市一全国	3.0	4.1	5.1	4.3	3.0	2.8	2.9	3.3	2	3	2
	市一県	-1.1	-0.3	0.3	0.9	0.0	0.3	0.0	1.0	0	0	0
	富山県	85.7	78.0	81.8	78.5	78.1	78.9	82.3	78.1	78	80	78
	県一全国	4.1	4.4	4.8	3.4	3.0	2.5	2.9	2.3	2	3	2
	全国	81.6	73.6	77.0	75.1	75.1	76.4	79.4	75.8	76	77	76

		国語 B										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	76.0	66.8	80.5	70.6	66.7	71.1	55.6	69.5	71	76	63
	市一全国	4.0	5.9	6.0	5.3	3.4	3.7	4.6	3.7	4	4	2
	市一県	-1.0	-0.3	0.4	1.0	-0.3	0.7	0.5	1.3	0	1	0
	富山県	77.0	67.1	80.1	69.6	67.0	70.4	55.1	68.2	71	75	63
	県一全国	5.0	6.2	5.6	4.3	3.7	3.0	4.1	2.4	4	3	2
	全国	72.0	60.9	74.5	65.3	68.3	67.4	51.0	65.8	67	72	61

国語		
H31	R3	R4
76	66	70
3	1	1
0	1	0
76	65	70
3	0	1
73	65	69

		数学 A										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	75.6	68.2	68.3	70.3	66.6	66.0	71.6	68.2	65	68	71
	市一全国	3.7	5.1	5.6	5.7	4.5	2.3	4.2	3.8	3	3	5
	市一県	-1.6	-1.7	-0.1	1.6	0.1	0.2	0.5	1.1	0	0	1
	富山県	77.2	69.9	68.4	68.7	66.5	65.8	71.1	67.1	65	68	70
	県一全国	5.3	6.8	5.7	4.1	4.4	2.1	3.7	2.7	3	3	4
	全国	71.9	63.1	62.7	64.6	62.1	63.7	67.4	64.4	62	65	66

		数学 B										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	64.7	53.6	64.1	51.6	55.4	44.3	63.6	46.3	49	51	51
	市一全国	4.1	4.4	7.2	8.3	6.1	2.8	3.8	4.7	5	3	4
	市一県	-1.2	-1.6	0.5	2.1	0.8	0.4	0.0	1.8	0	1	0
	富山県	65.9	55.2	63.6	49.5	54.6	48.9	63.8	44.5	49	50	51
	県一全国	5.3	6.0	6.7	6.2	5.3	2.4	3.8	2.9	5	2	4
	全国	60.6	49.2	56.9	43.3	49.3	41.5	59.8	41.6	44	48	47

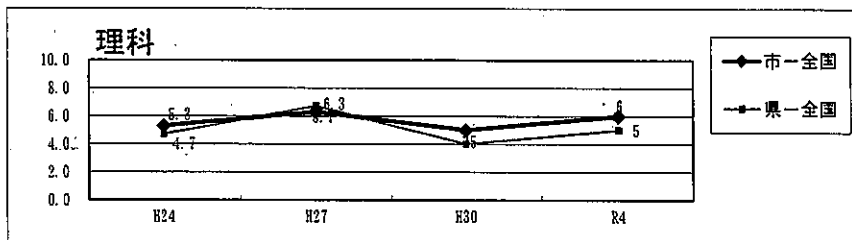
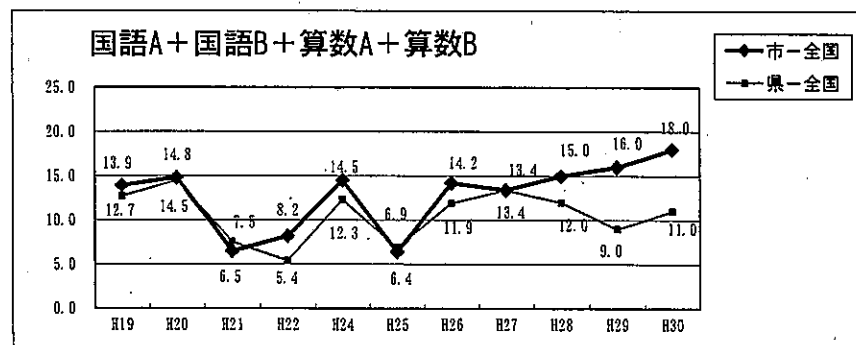
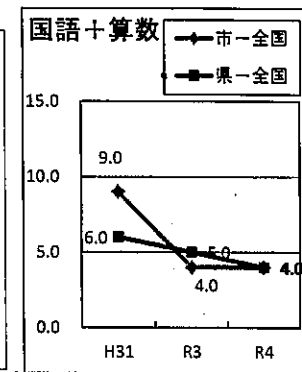
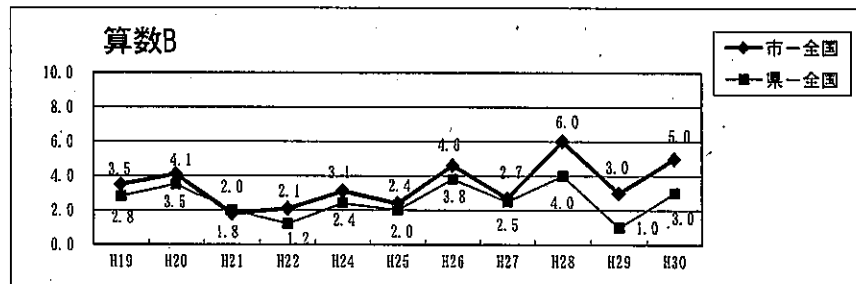
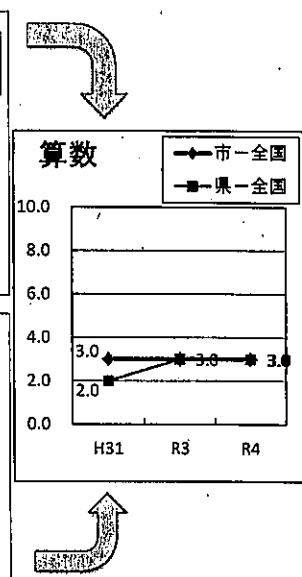
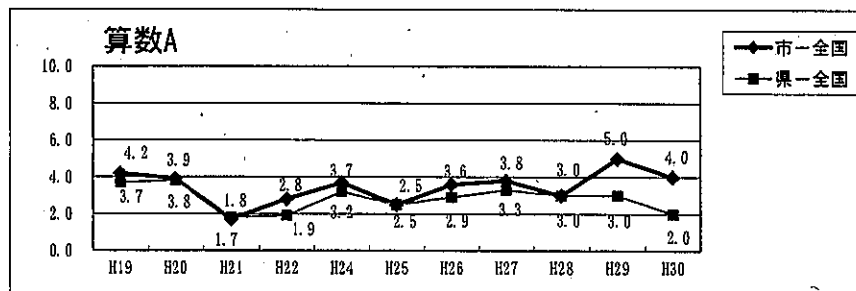
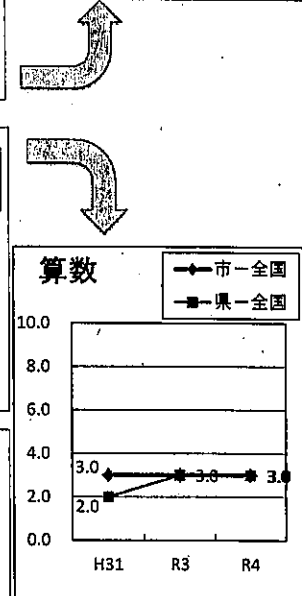
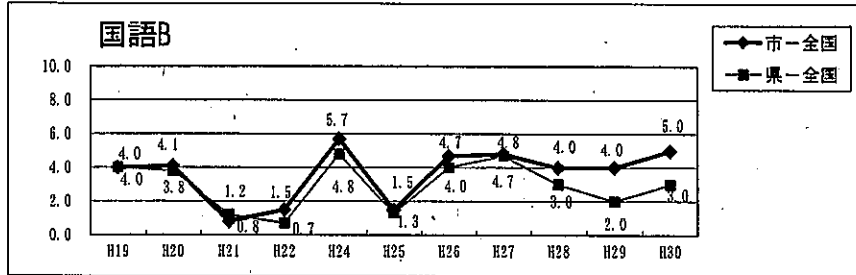
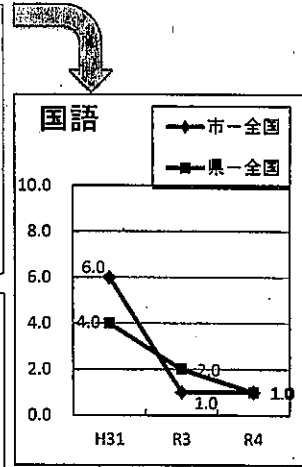
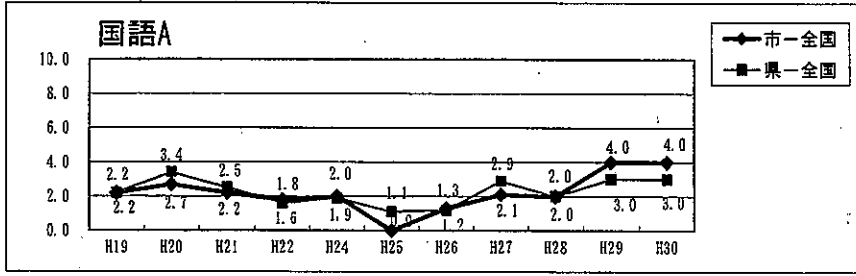
数学		
H31	R3	R4
65	59	55
5	2	4
0	0	0
65	59	55
5	2	4
60	57	51

		理科			
		H24	H27	H30	R4
平均正答率	富山市	66.2	67.1	65	69
	市一全国	5.3	6.3	5	6
	市一県	0.6	-0.4	1	1
	富山県	65.6	67.5	64	68
	県一全国	4.7	6.7	4	5
	全国	60.9	60.8	60	63

		理科			
		H24	H27	H30	R4
平均正答率	富山市	68.0	60.8	70	52
	市一全国	7.0	7.8	4	3
	市一県	1.2	1.6	0	0
	富山県	56.8	59.2	70	52
	県一全国	5.8	6.2	4	3
	全国	51.0	53.0	66	49

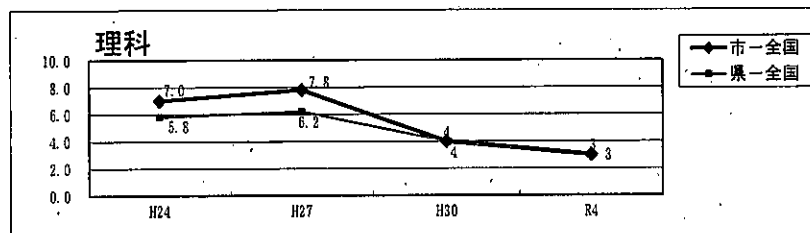
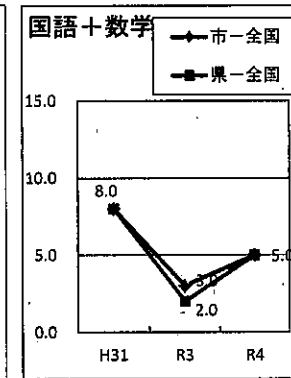
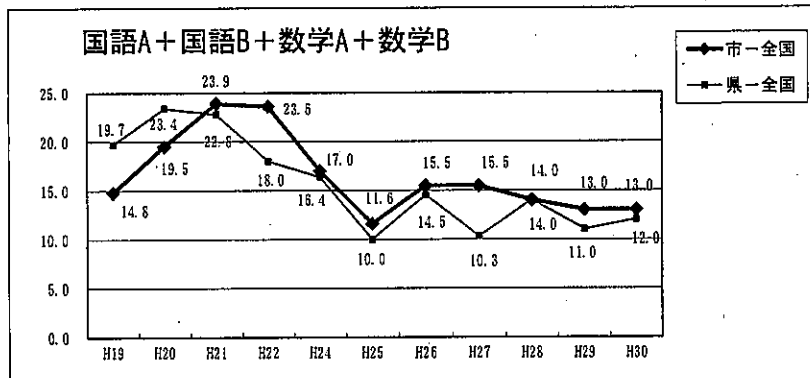
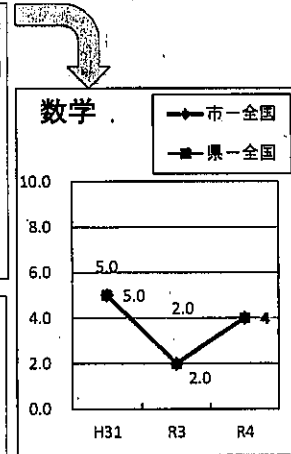
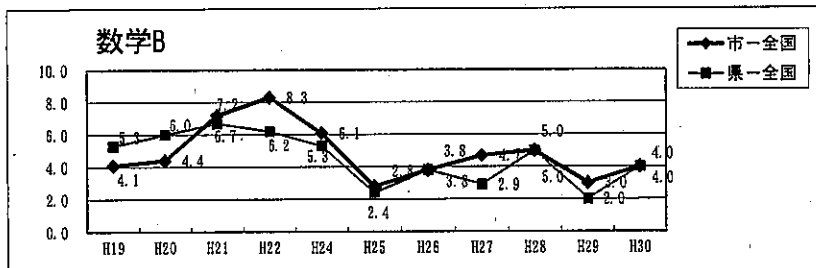
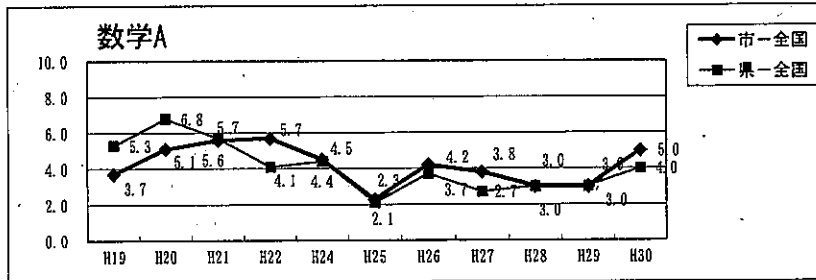
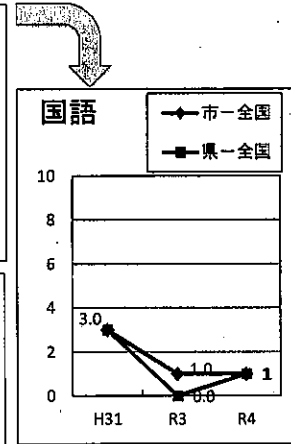
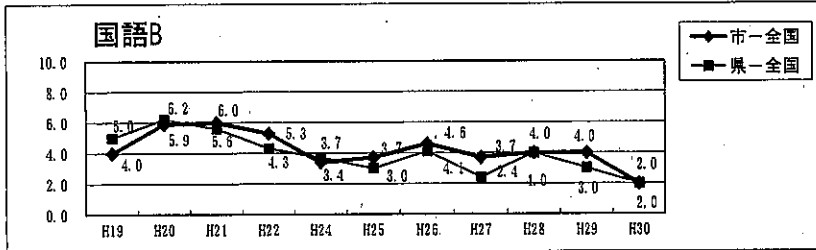
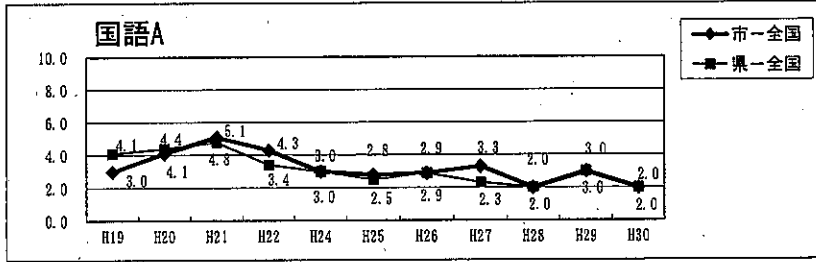
【小学校6年生】

※全国の平均正答率との差(%)



【中学校3年生】

※全国の平均正答率との差(%)



【小学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式			正答率 誤答率 無解答率
			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
			(1) 言葉の意味や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 技法が国や言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと				
3三イ	【文章2】の中の「部イ」を、漢字を使って書き直す（はんにせい）	半年別漢字記当表に示されている漢字を文中で正しく使う	5・6 エ									富山市 60.7 30.4 8.9 全国(公立) 58.7 31.1 10.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3三ウ	【文章2】の中の「部ウ」を、漢字を使って書き直す（したしむ）		5・6 エ								富山市 65 21 14 全国(公立) 67.1 18.2 14.7 0% 20% 40% 60% 80% 100%	
3四	(一) から (二) に書き直した際、質を付けた内容として適切なものを選択する	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く		3・4 エ(イ)							富山市 80.2 14.3 5.5 全国(公立) 77.9 16.2 5.9 0% 20% 40% 60% 80% 100%	

【小学校 算数】

校 問 番 号	設 問 の 概 要	出 題 の 趣 意	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率	誤答率	無解答率							
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式				記述式						
1 (1)	1050×4を計算する	被乗数に空位のある乗法の計算をすることができる	3(1) 7(1) 3(3) 7(1) 4(1) 7(1)														富山市 93.2	6.4	0.4	全国(公立) 92.4	7.3	0.3
1 (2)	14と21の最小公倍数を求める	二つの数の最小公倍数を求めることができる	5(1) 7(1)														富山市 80.5	17.5	2.0	全国(公立) 72.2	24.8	3.0
1 (3)	カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	3(4) 1(7) 4(3) 7(1)														富山市 78.8	15.6	5.6	全国(公立) 76.0	18.8	5.2
1 (4)	85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考えることができる	4(2) 1(7)														富山市 35.9	63.6	0.5	全国(公立) 34.8	64.3	0.9
2 (1)	果汁が25%含まれている飲み物の量を並べたときの、果汁の量を分数で表す	百分率で表された割合を分数で表すことができる				5(3) 7(1)											富山市 76.8	20.6	2.6	全国(公立) 71.1	25.0	3.9
2 (2)	果汁が40%含まれている飲み物の量が100mLのときの、果汁の量を書く	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる				5(3) 7(1)											富山市 71.1	26.3	2.6	全国(公立) 64.6	32.1	3.3
2 (3)	果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している				5(3) 7(7)											富山市 21.7	77.5	0.8	全国(公立) 21.4	77.5	1.1
2 (4)	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる				5(1) 1(7)											富山市 50.5	43.7	5.8	全国(公立) 48.0	46.5	5.5
3 (1)	表のしりとり期に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	4(8) 7(7)														富山市 76.4	21.0	2.6	全国(公立) 75.3	22.6	2.1
3 (2)	分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる				3(1) 1(7)											富山市 67.7	30.8	1.5	全国(公立) 63.9	34.5	1.6

【小学校 算数】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率	誤答率	無解答率	富山市	全国(公立)		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式						記述式	
3 (3)	1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる				5 (1) 7 (7)	○				○					富山市	69.4	28.6	2.0
3 (4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	4 (6) 7 (7) イ (7)								○					富山市	70.6	20.6	8.8
4 (1)	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる	3 (1) 7 (7) 4 (6) 7 (7) イ (7)								○					富山市	48.1	48.3	3.6
4 (2)	長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している	2 (1) 7 (7)								○					富山市	85.3	10.4	4.3
4 (3)	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している	4 (1) 7 (7) イ (7)								○					富山市	68.5	27.0	4.5
4 (4)	示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる	4 (1) 7 (7) イ (7)								○					富山市	62.5	32.5	5.0
																富山市	66.8	31.0	2.2
																富山市	67.7	23.7	8.6
																富山市	48.8	47.4	3.8
																富山市	83.2	12.1	4.7
																富山市	66.5	28.9	4.6
																富山市	57.6	37.3	5.1

【小学校 理科】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域		評価の観点			問題形式														
			A区分	B区分	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式												
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域 「生命」を柱とする領域 「地球」を柱とする領域																		
1 (1)	見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる		3B (1)ア (7) (イ)※						<table border="1"> <tr><th>調査対象</th><th>正答率 (%)</th><th>誤答率 (%)</th><th>無解答率 (%)</th></tr> <tr><td>富山市</td><td>94.5</td><td>5.3</td><td>0.2</td></tr> <tr><td>全国(公立)</td><td>92.9</td><td>6.9</td><td>0.2</td></tr> </table>	調査対象	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	94.5	5.3	0.2	全国(公立)	92.9	6.9	0.2
調査対象	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																			
富山市	94.5	5.3	0.2																			
全国(公立)	92.9	6.9	0.2																			
1 (2)	自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる		3B (1)ア (7) (イ)※						<table border="1"> <tr><th>調査対象</th><th>正答率 (%)</th><th>誤答率 (%)</th><th>無解答率 (%)</th></tr> <tr><td>富山市</td><td>73.9</td><td>20.9</td><td>5.2</td></tr> <tr><td>全国(公立)</td><td>67.5</td><td>27.5</td><td>5.0</td></tr> </table>	調査対象	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	73.9	20.9	5.2	全国(公立)	67.5	27.5	5.0
調査対象	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																			
富山市	73.9	20.9	5.2																			
全国(公立)	67.5	27.5	5.0																			
1 (3)	昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナノホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ	昆虫の体のつくりを理解している		3B (1)ア (7) (イ)※						<table border="1"> <tr><th>調査対象</th><th>正答率 (%)</th><th>誤答率 (%)</th><th>無解答率 (%)</th></tr> <tr><td>富山市</td><td>78.5</td><td>21.2</td><td>0.3</td></tr> <tr><td>全国(公立)</td><td>73.1</td><td>26.6</td><td>0.3</td></tr> </table>	調査対象	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	78.5	21.2	0.3	全国(公立)	73.1	26.6	0.3
調査対象	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																			
富山市	78.5	21.2	0.3																			
全国(公立)	73.1	26.6	0.3																			
1 (4)	資料を基に、カブトムシは青ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ	提示された情報を、複数の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができる		3B (1)ア (7) (イ)※						<table border="1"> <tr><th>調査対象</th><th>正答率 (%)</th><th>誤答率 (%)</th><th>無解答率 (%)</th></tr> <tr><td>富山市</td><td>81.6</td><td>17.9</td><td>0.5</td></tr> <tr><td>全国(公立)</td><td>76.1</td><td>23.2</td><td>0.7</td></tr> </table>	調査対象	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	81.6	17.9	0.5	全国(公立)	76.1	23.2	0.7
調査対象	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																			
富山市	81.6	17.9	0.5																			
全国(公立)	76.1	23.2	0.7																			
1 (5)	青ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだし、選ぶ	観察などで得た結果を、他者の気付いたことを基に、観察の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる		3B (1)ア (7) (イ)※						<table border="1"> <tr><th>調査対象</th><th>正答率 (%)</th><th>誤答率 (%)</th><th>無解答率 (%)</th></tr> <tr><td>富山市</td><td>67.2</td><td>31.9</td><td>0.9</td></tr> <tr><td>全国(公立)</td><td>65.5</td><td>33.1</td><td>1.4</td></tr> </table>	調査対象	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	67.2	31.9	0.9	全国(公立)	65.5	33.1	1.4
調査対象	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																			
富山市	67.2	31.9	0.9																			
全国(公立)	65.5	33.1	1.4																			
2 (1)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	メスシリンダーという器具を理解している		4A (2) ア (ウ)						<table border="1"> <tr><th>調査対象</th><th>正答率 (%)</th><th>誤答率 (%)</th><th>無解答率 (%)</th></tr> <tr><td>富山市</td><td>93.6</td><td>4.0</td><td>2.4</td></tr> <tr><td>全国(公立)</td><td>67.8</td><td>22.4</td><td>9.8</td></tr> </table>	調査対象	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	93.6	4.0	2.4	全国(公立)	67.8	22.4	9.8
調査対象	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																			
富山市	93.6	4.0	2.4																			
全国(公立)	67.8	22.4	9.8																			
2 (2)	水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ	メスシリンダーの正しい読み方を身に付けている		4A (2) ア (ウ)						<table border="1"> <tr><th>調査対象</th><th>正答率 (%)</th><th>誤答率 (%)</th><th>無解答率 (%)</th></tr> <tr><td>富山市</td><td>75.1</td><td>24.0</td><td>0.9</td></tr> <tr><td>全国(公立)</td><td>70.0</td><td>29.4</td><td>0.6</td></tr> </table>	調査対象	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	75.1	24.0	0.9	全国(公立)	70.0	29.4	0.6
調査対象	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																			
富山市	75.1	24.0	0.9																			
全国(公立)	70.0	29.4	0.6																			
2 (3)	水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見いだし、問題に対するまとめを選ぶ	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる		4A (2) ア (ウ) 5A (1) ア (ウ)※						<table border="1"> <tr><th>調査対象</th><th>正答率 (%)</th><th>誤答率 (%)</th><th>無解答率 (%)</th></tr> <tr><td>富山市</td><td>67.1</td><td>32.1</td><td>0.8</td></tr> <tr><td>全国(公立)</td><td>62.8</td><td>36.2</td><td>1.0</td></tr> </table>	調査対象	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)	富山市	67.1	32.1	0.8	全国(公立)	62.8	36.2	1.0
調査対象	正答率 (%)	誤答率 (%)	無解答率 (%)																			
富山市	67.1	32.1	0.8																			
全国(公立)	62.8	36.2	1.0																			

【小学校 理科】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域		評価の観点	問題形式			正答率	誤答率	無解答率	
			A区分	B区分		選択式	短答式	記述式				
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域 「生命」を柱とする領域 「地球」を柱とする領域								
2 (4)	凍った水溶液について、融してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	自然の事象・現象から得た情報を、他者の視点から分析して、解釈し、自分の考えをもつ。その内容を記述できる	4A (2) ア (5) A (1) ア (2) ※		知識・技能	○						富山市 41.2 50.6 8.2 全国(公立) 39.3 52.0 8.7
3 (1)	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	日光は直進することを理解している	3A (3) ア (7)			○						富山市 27.5 72.0 0.5 全国(公立) 27.8 71.6 0.6
3 (2)	実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ	問題に対するまともな考えを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している	3A (3) ア (7) イ			○						富山市 78.7 20.2 1.1 全国(公立) 74.4 24.3 1.3
3 (3)	鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く	自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	3A (3) ア (7) イ ※		3B (2) ア (7) ※	○						富山市 72.7 23.4 3.9 全国(公立) 68.9 26.0 5.1
3 (4)	問題に対するまともな結果から、その根拠を実験の結果を基にして書く	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ。その内容を記述できる	3A (3) ア (7) イ ※			○						富山市 35.1 54.2 10.7 全国(公立) 35.1 53.7 11.2
4 (1)	冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまともな結果を選ぶ	観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる			4B (4) ア (7) ※	○						富山市 84.4 14.8 0.8 全国(公立) 82.3 16.7 1.0
4 (2)	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を抜いたグラフを見通して選ぶ	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる			4B (4) ア (7) ※	○						富山市 69.8 29.3 0.9 全国(公立) 64.5 34.2 1.3
4 (3)	結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる			4B (4) ア (7) ※	○						富山市 53.2 42.6 4.2 全国(公立) 45.5 48.0 6.5
4 (4)	鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く	水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している	4A (2) ア (9)		4B (4) ア (7) イ	○						富山市 70.6 24.8 4.6 全国(公立) 62.0 31.8 6.2

【中学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式			<input type="checkbox"/> 正答率 <input type="checkbox"/> 誤答率 <input type="checkbox"/> 無解答率
			知識及び技能			態度・技能・表現			選択式	短答式	記述式	
			(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2)情報の扱い方に 関する事項	(3)我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと				
3 四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する										富山市: 73.3 (誤答率 13.6) 13.1 全国(公立): 73.8 (誤答率 12.9) 13.3 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4 一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する			1 エ(4)							富山市: 39.8 (誤答率 59.6) 0.6 全国(公立): 39.4 (誤答率 59.7) 0.9 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4 二	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する			2 ウ(7)							富山市: 91.0 (誤答率 8.4) 0.6 全国(公立): 90.1 (誤答率 8.9) 1.0 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4 三	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する			2 ウ(7)							富山市: 81.4 (誤答率 17.7) 0.9 全国(公立): 81.1 (誤答率 17.8) 1.1 0% 20% 40% 60% 80% 100%

【中学校 数学】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式		正答率	誤答率	無解答率
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式			
1	4, 2を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	1 (1) ア, イ										<p>富山市: 正答率 75.1%, 誤答率 19.1%, 無解答率 5.8%</p> <p>全国(公立): 正答率 52.2%, 誤答率 36.3%, 無解答率 11.5%</p>
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2 (2) ア (ウ)										<p>富山市: 正答率 76.9%, 誤答率 17.9%, 無解答率 5.2%</p> <p>全国(公立): 正答率 74.5%, 誤答率 19.4%, 無解答率 6.1%</p>
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて, 正しく述べたものを選ぶ	反例の意味を理解している	2 (2) ア (イ)										<p>富山市: 正答率 47.9%, 誤答率 51.8%, 無解答率 0.3%</p> <p>全国(公立): 正答率 44.9%, 誤答率 54.7%, 無解答率 0.4%</p>
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している		2 (1) ア (イ)									<p>富山市: 正答率 43.7%, 誤答率 56.0%, 無解答率 0.3%</p> <p>全国(公立): 正答率 37.9%, 誤答率 61.7%, 無解答率 0.4%</p>
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している			1 (2) ア (イ)								<p>富山市: 正答率 84.4%, 誤答率 15.3%, 無解答率 0.3%</p> <p>全国(公立): 正答率 83.3%, 誤答率 16.4%, 無解答率 0.3%</p>
6 (1)	同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について, n が9のときどのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に投入することができる	2 (1) ア (イ)										<p>富山市: 正答率 75.6%, 誤答率 19.2%, 無解答率 5.2%</p> <p>全国(公立): 正答率 73.8%, 誤答率 20.2%, 無解答率 6.0%</p>
6 (2)	差が4である2つの偶数の和が, 4の倍数になることの説明を完成させる	目的に応じて式を変形したり, その意味を読み取ったりして, 事柄が成り立つ理由を説明することができる	2 (1) イ (イ)										<p>富山市: 正答率 52.2%, 誤答率 28.8%, 無解答率 19.0%</p> <p>全国(公立): 正答率 48.7%, 誤答率 31.3%, 無解答率 20.0%</p>
6 (3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について, 予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え, 新たな事柄を見いだし, 説明することができる	2 (1) イ (イ)										<p>富山市: 正答率 40.9%, 誤答率 34.6%, 無解答率 24.5%</p> <p>全国(公立): 正答率 37.6%, 誤答率 36.2%, 無解答率 26.2%</p>
7 (1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び, 選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え, 判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1 (1) ア (イ)								<p>富山市: 正答率 43.7%, 誤答率 54.2%, 無解答率 2.1%</p> <p>全国(公立): 正答率 44.0%, 誤答率 54.6%, 無解答率 1.4%</p>
7 (2)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について, 正しく述べたものを選ぶ	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる			2 (1) ア (イ)								<p>富山市: 正答率 46.6%, 誤答率 52.7%, 無解答率 0.7%</p> <p>全国(公立): 正答率 44.1%, 誤答率 55.2%, 無解答率 0.7%</p>

【中学校 数学】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式		<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="width: 15px; height: 15px; background-color: white; border: 1px solid black;"></div> 正答率 <div style="width: 15px; height: 15px; background-color: #cccccc; border: 1px solid black;"></div> 誤答率 <div style="width: 15px; height: 15px; background-color: black; border: 1px solid black;"></div> 無解答率 </div>								
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組み態度	選択式	記述式									
8 (1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる		1(1) ア ウ イ								<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="width: 100%; text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>富山市</td> <td>55.9</td> <td>37.4</td> <td>6.7</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>54.6</td> <td>38.2</td> <td>7.2</td> </tr> </table> </div> </div>	富山市	55.9	37.4	6.7	全国(公立)	54.6	38.2	7.2
富山市	55.9	37.4	6.7																	
全国(公立)	54.6	38.2	7.2																	
8 (2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる		1(1) イ							<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="width: 100%; text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>富山市</td> <td>37.2</td> <td>39.6</td> <td>23.2</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>38.4</td> <td>37.2</td> <td>24.4</td> </tr> </table> </div> </div>	富山市	37.2	39.6	23.2	全国(公立)	38.4	37.2	24.4	
富山市	37.2	39.6	23.2																	
全国(公立)	38.4	37.2	24.4																	
9 (1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している		2(2) ア ア							<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="width: 100%; text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>富山市</td> <td>76.0</td> <td>16.5</td> <td>7.5</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>73.2</td> <td>19.3</td> <td>7.5</td> </tr> </table> </div> </div>	富山市	76.0	16.5	7.5	全国(公立)	73.2	19.3	7.5	
富山市	76.0	16.5	7.5																	
全国(公立)	73.2	19.3	7.5																	
9 (2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる		2(2) イ イ							<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="width: 100%; text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>富山市</td> <td>14.6</td> <td>48.4</td> <td>37.0</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>12.5</td> <td>49.0</td> <td>38.5</td> </tr> </table> </div> </div>	富山市	14.6	48.4	37.0	全国(公立)	12.5	49.0	38.5	
富山市	14.6	48.4	37.0																	
全国(公立)	12.5	49.0	38.5																	

【中学校 理科】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式		正答率	誤答率	無解答率							
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り	選択式	記述式										
1 (1)	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(3)	(7)					○							富山市 47.6	52.2	0.2	全国(公立) 44.2	55.7	0.1
1 (2)	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを調べる	(3)	(7)					○							富山市 80.3	19.5	0.2	全国(公立) 78.5	21.4	0.1
2 (1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる				(4)	(7)		○							富山市 53.5	46.2	0.3	全国(公立) 54.2	45.6	0.2
2 (2)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と気象観測データとを天気図に関連付けて、気圧の変化を分析して解釈できるかどうかをみる				(4)	(7)		○							富山市 37.0	62.7	0.3	全国(公立) 40.8	58.9	0.3
2 (3)	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った結果の妥当性について、多角的・総合的に検討して改善できるかどうかをみる				(4)	(7)		○							富山市 32.3	67.4	0.3	全国(公立) 28.5	71.2	0.3
3 (1)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる	(4)	(7)					○							富山市 85.6	14.2	0.2	全国(公立) 80.1	19.8	0.1
3 (2)	水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する	水を電気分解して発生させた水素を燃料として使うしくみを探究する学習場面において、粒子の保存性の観点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる	(4)	(7)					○							富山市 66.2	33.5	0.3	全国(公立) 60.2	39.5	0.3
3 (3)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を調べるおおもとを推論する	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を調べるおおもととして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	(3)	(7)	(4)	(7)			○							富山市 25.8	70.5	3.7	全国(公立) 24.8	70.9	4.3
4 (1)	ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子について、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる			(1)	(7)			○							富山市 73.0	21.0	6.0	全国(公立) 74.5	20.0	5.5
4 (2)	節足動物には骨格のつくりが共通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのはしの関節を選択する	複数の節足動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を調かけながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる			(1)	(7)			○							富山市 65.1	34.7	0.2	全国(公立) 65.6	34.2	0.2

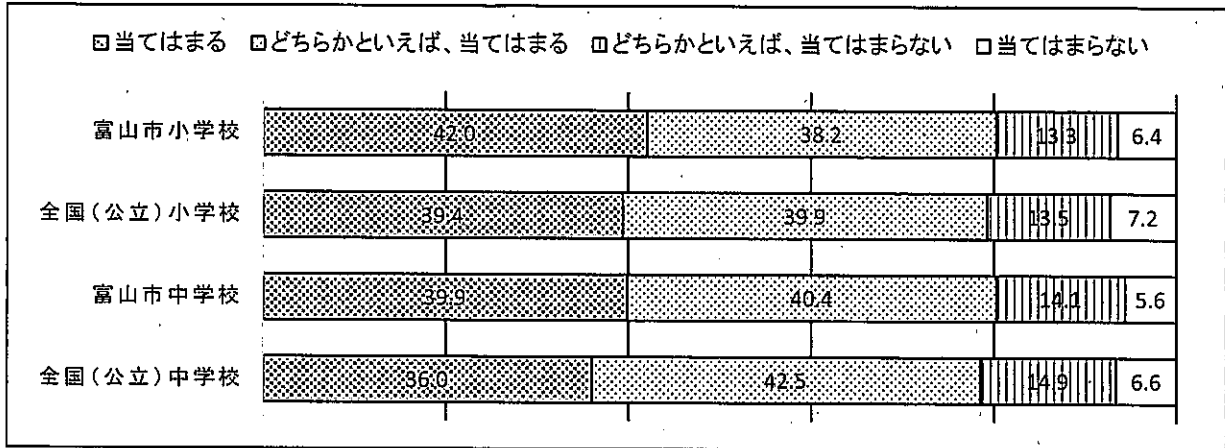
【中学校 理科】

取組番号	取組の概要	出題の趣意	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式			正答率	誤答率	無解答率		
			「エネルギー」を柱とする領域	「物質」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組み態度	選択式	連答式	記述式					
5 (1)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	(1) [イ]			○										富山市 16.0 83.7 0.3 全国(公立) 15.3 84.5 0.2
5 (2)	「ばねが伸びる大きさは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した実験を行うために、適切な処理されたグラフを選択する	課題に正対した実験を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	(1) [イ]			○										富山市 54.9 44.7 0.4 全国(公立) 45.0 54.6 0.4
5 (3)	実験の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	実験の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の観点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	(1) [イ]			○										富山市 44.4 30.5 25.1 全国(公立) 43.3 27.3 29.4
6 (1)	玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことと、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる					(2) [ア]	○								富山市 49.6 50.0 0.4 全国(公立) 48.0 51.7 0.3
6 (2)	陸上のB地点で中生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の移動だけで推測した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる	過去の大地の移動について、垂直方向の移動だけで推測した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる					(2) [イ]	○								富山市 62.1 37.2 0.7 全国(公立) 60.3 39.1 0.6
6 (3)	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する	地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる					(2) [イ]	○								富山市 35.0 64.5 0.5 全国(公立) 34.2 65.1 0.7
7 (1)	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(2) [ウ]				○									富山市 53.5 46.2 0.3 全国(公立) 35.9 63.7 0.4
7 (2)	保温断熱層に水蒸気を含み空気を運んだ一つの実験で行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する	実験の結果が考察の根拠として十分かどうかを検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる	(2) [ウ]				○									富山市 56.9 41.8 1.3 全国(公立) 53.4 45.6 1.0
8 (1)	アリの視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した実験を記述する	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した実験を行うことができるかどうかをみる	(3) [ウ]				○									富山市 59.8 30.6 9.6 全国(公立) 55.2 33.2 11.6
8 (2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件調整の不備の可能性を指摘する	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、実験の操作や条件調整の不備の可能性について検討し、探究の過程の見直しをもつことができるかどうかをみる	(3) [ウ]				○									富山市 60.2 27.3 12.5 全国(公立) 55.1 30.0 14.9
8 (3)	生物Xが昆虫類かどうかとアリと比較しながら、観測と基準を明確にして判断する	未知の動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる	(1) [イ]				○									富山市 41.2 56.9 1.9 全国(公立) 39.2 59.4 1.4

4 児童生徒質問調査 (★のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)

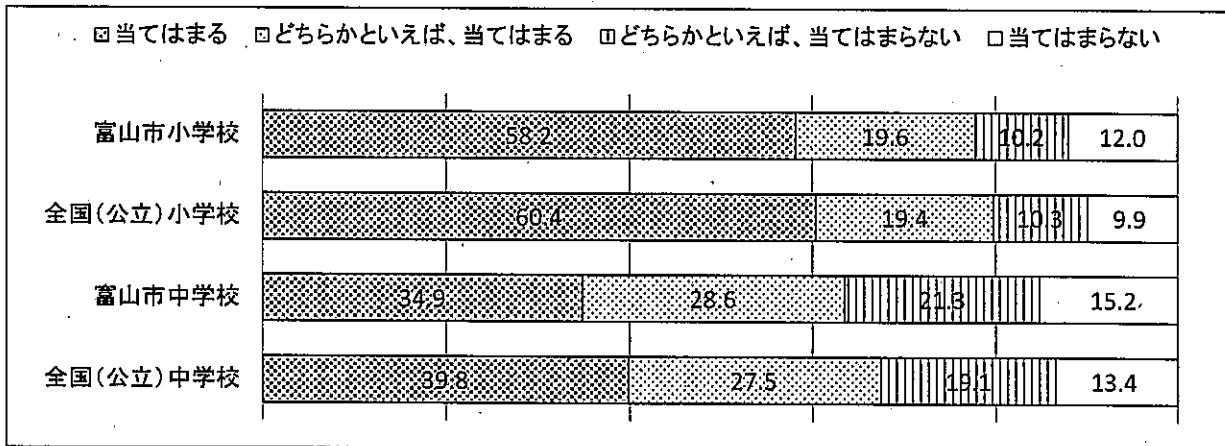
【自尊感情】

1 自分には、よいところがあると思いますか。



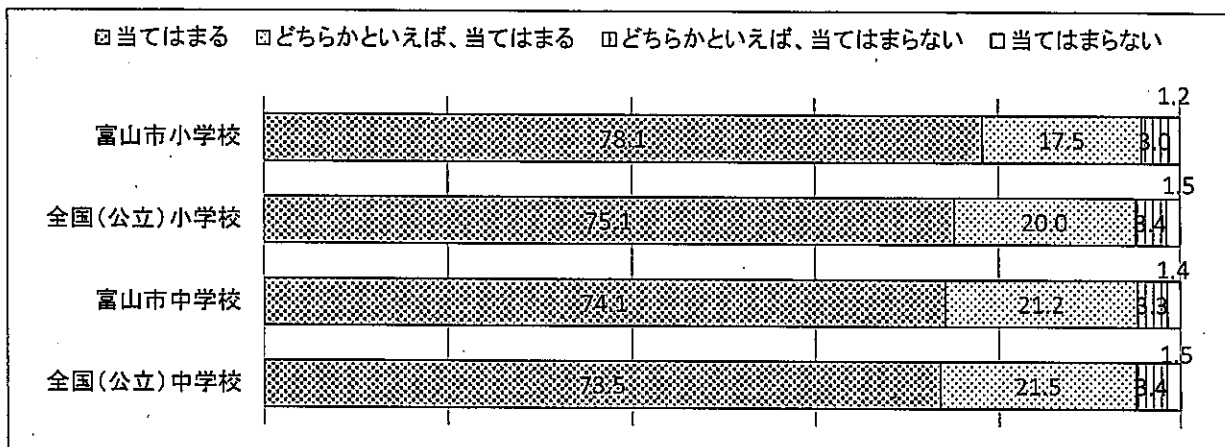
※ 「自分にはよいところがあると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

2 将来の夢や目標を持っていますか。



※ 「将来の夢や目標を持っている」「どちらかといえば、持っている」児童の割合は全国とほぼ同じであるが、生徒の割合は全国よりやや低い。

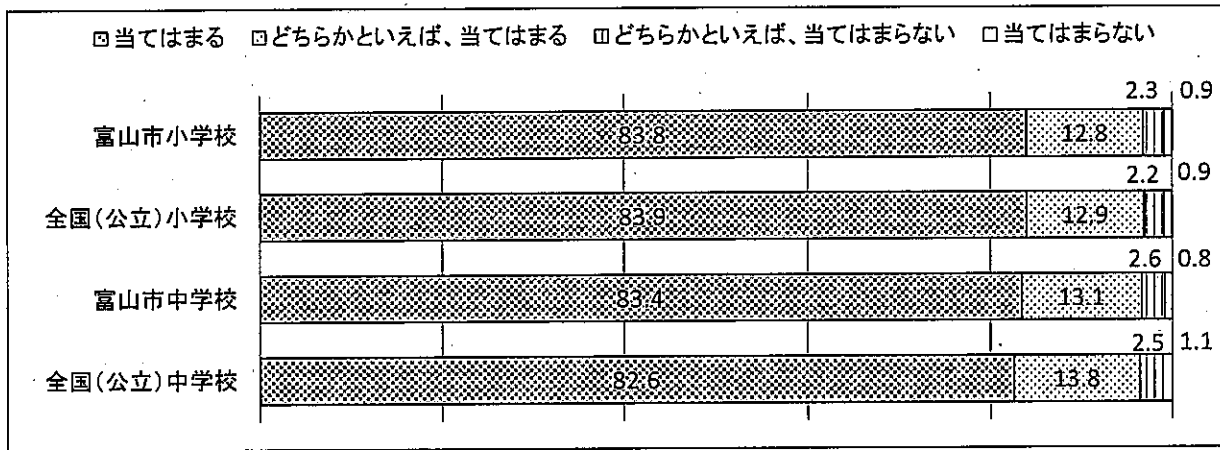
3 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



※ 「人の役に立つ人間になりたいと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

【規範意識】

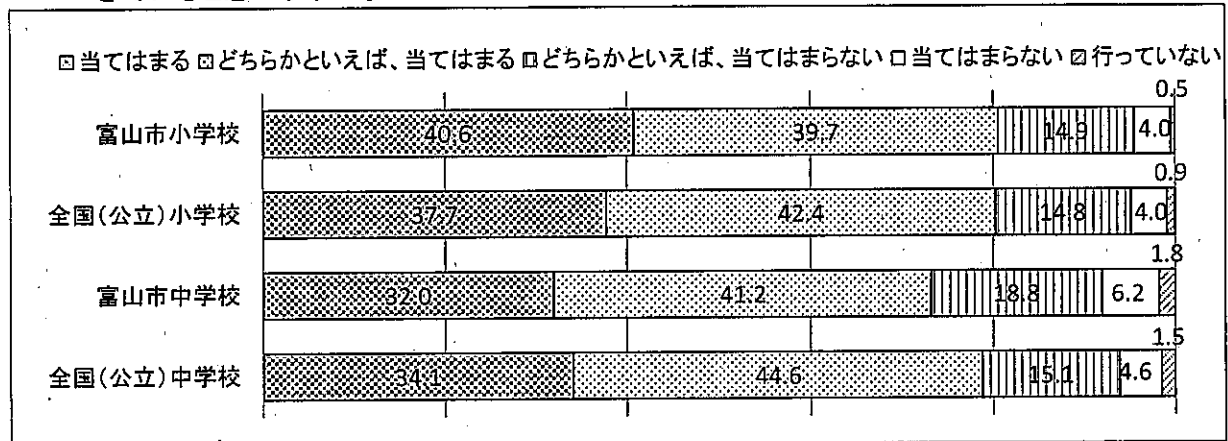
4 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



※ 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

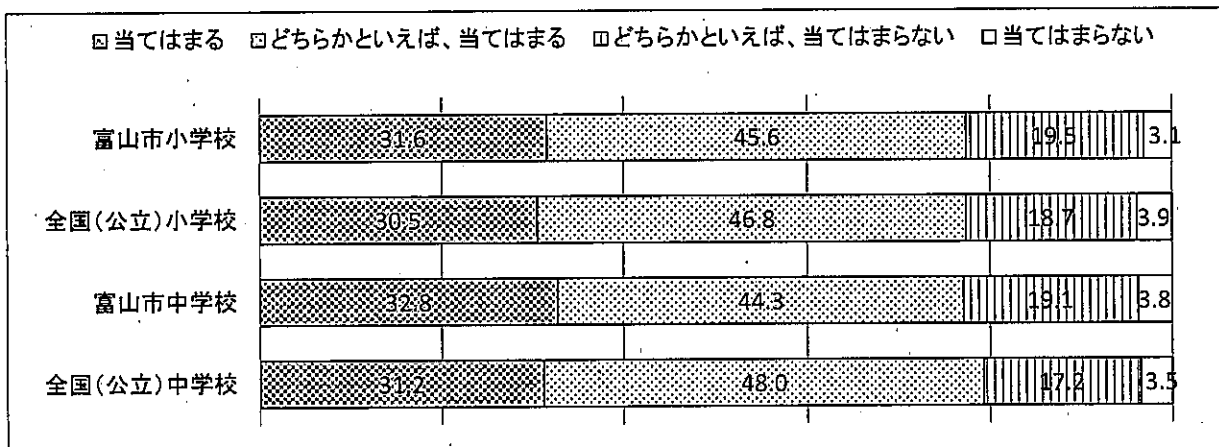
【授業での活動】

5 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



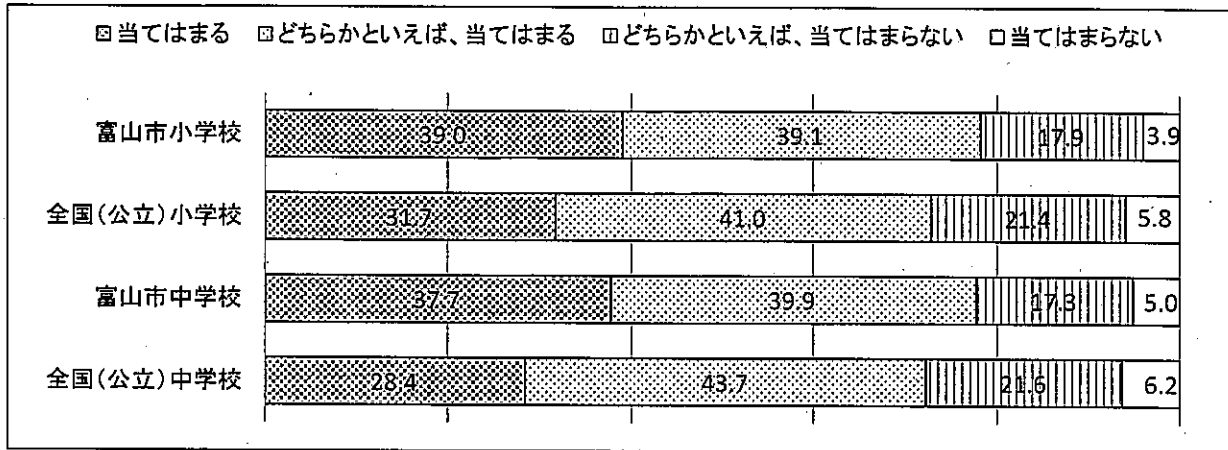
※ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと思う」「どちらかといえば思う」児童の割合は全国とほぼ同じであるが、生徒の割合は全国より低い。

6 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



※ 「授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

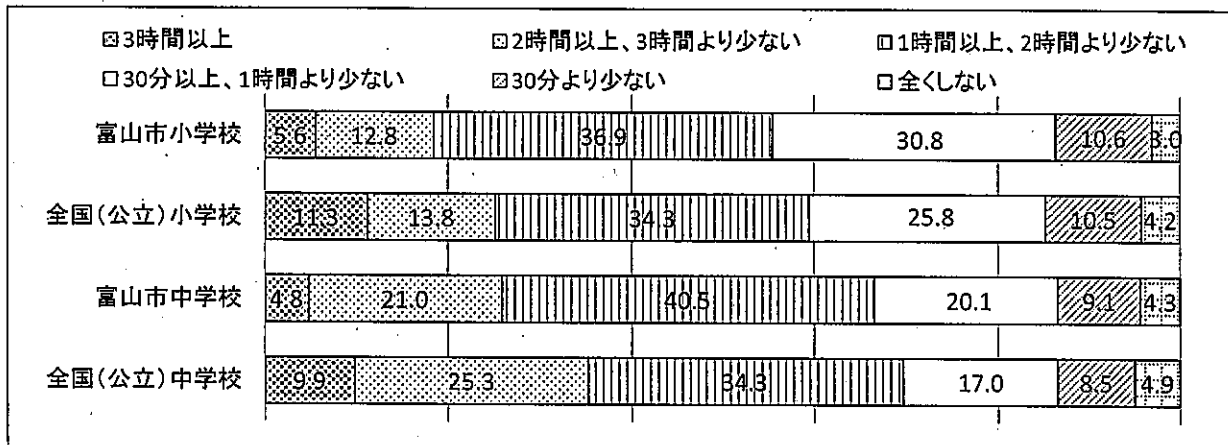
7 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。



※ 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国より高い。

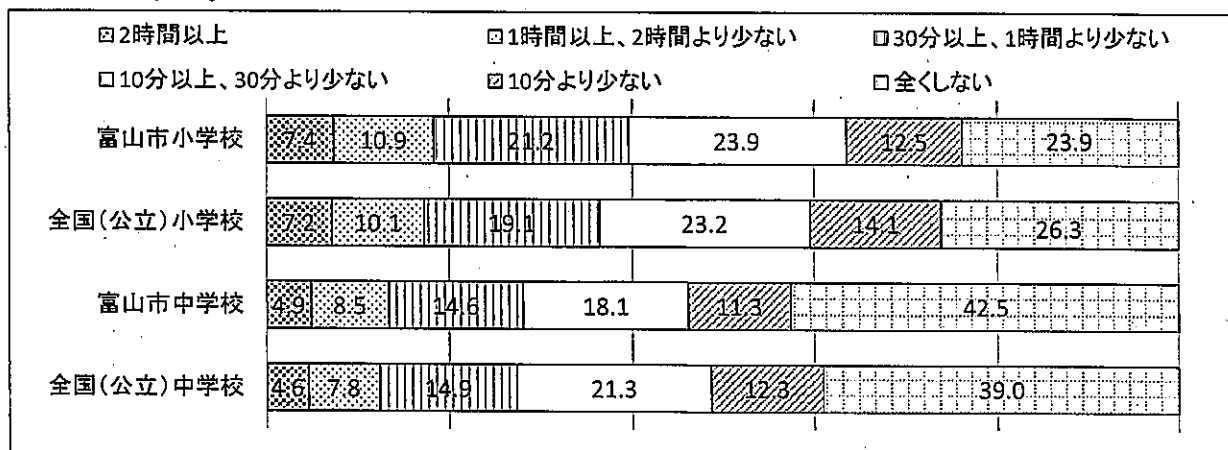
【家庭学習】

8 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



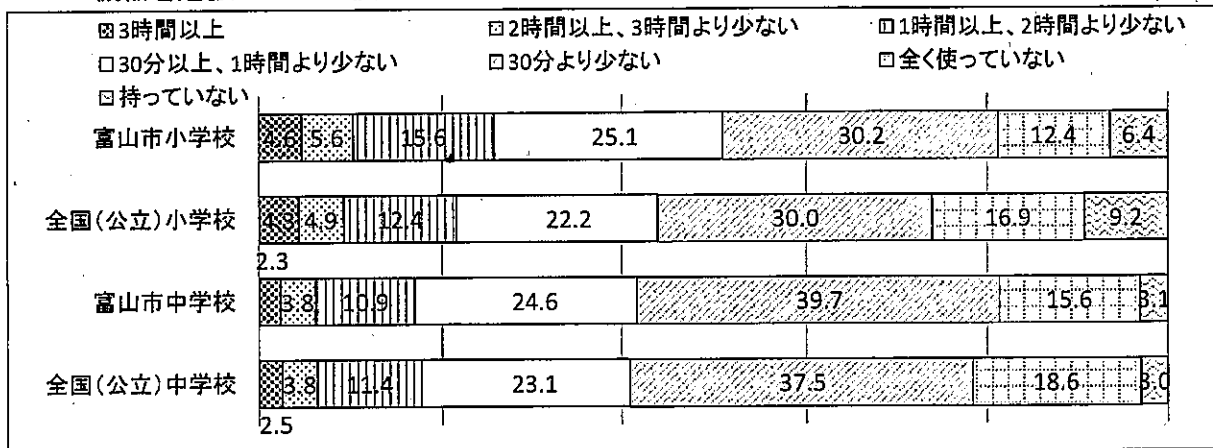
※ 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1時間以上勉強をしている」児童生徒の割合は全国よりやや低い。

9 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。



※ 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、家や図書館で30分以上読書をしている」児童の割合は全国よりやや高いが、生徒の割合は全国とほぼ同じである。

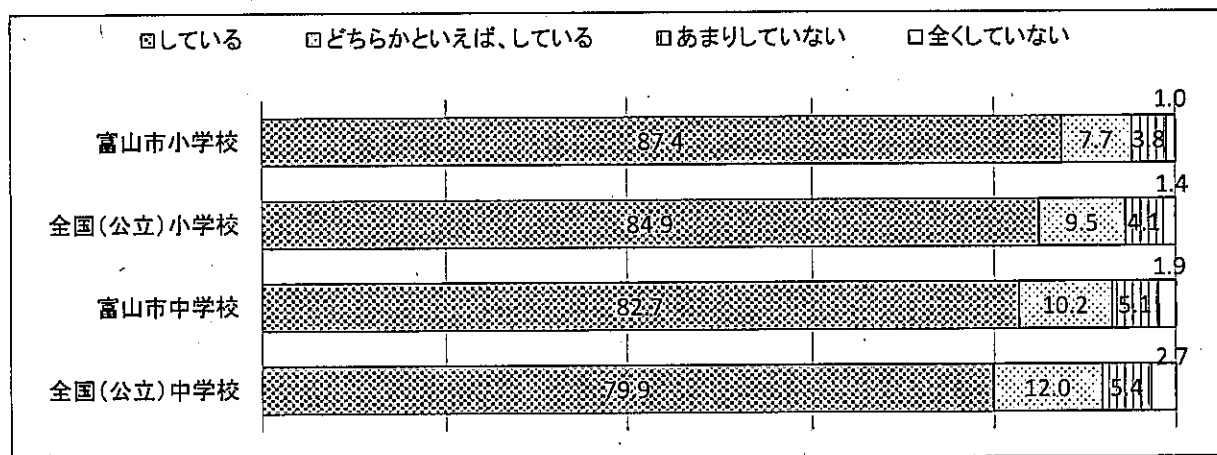
10 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を勉強のために使っていますか。



※ 「普段(月～金曜日)、30分以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を勉強のために使っている」児童の割合は全国より高いが、生徒の割合は全国とほぼ同じである。

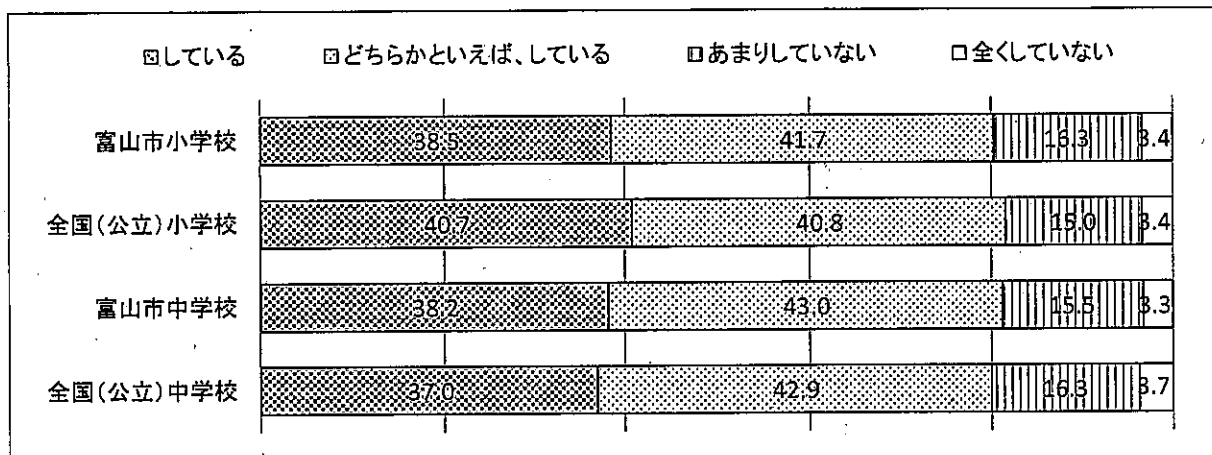
【家庭での生活】

11 朝食を毎日食べていますか。



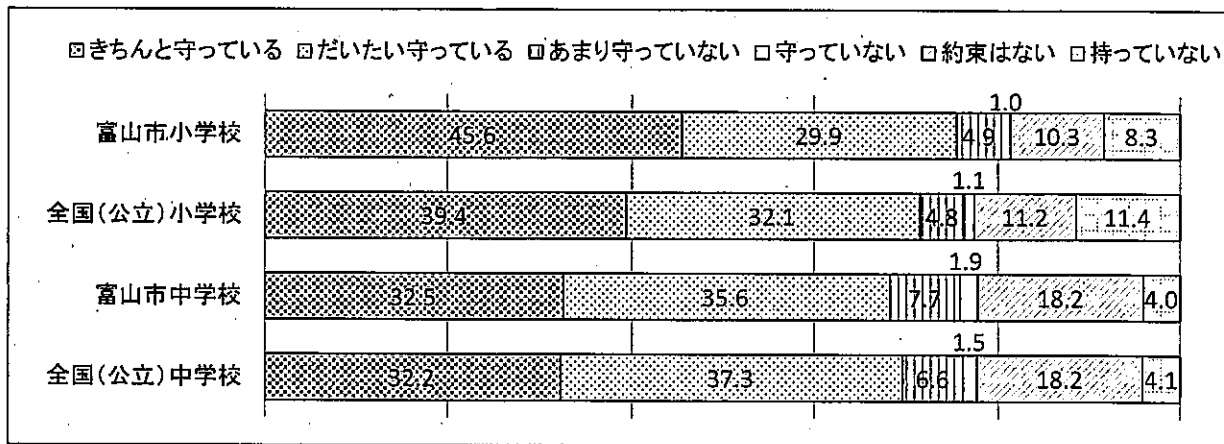
※ 「朝食を毎日食べている」「どちらかといえば、食べている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

12 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



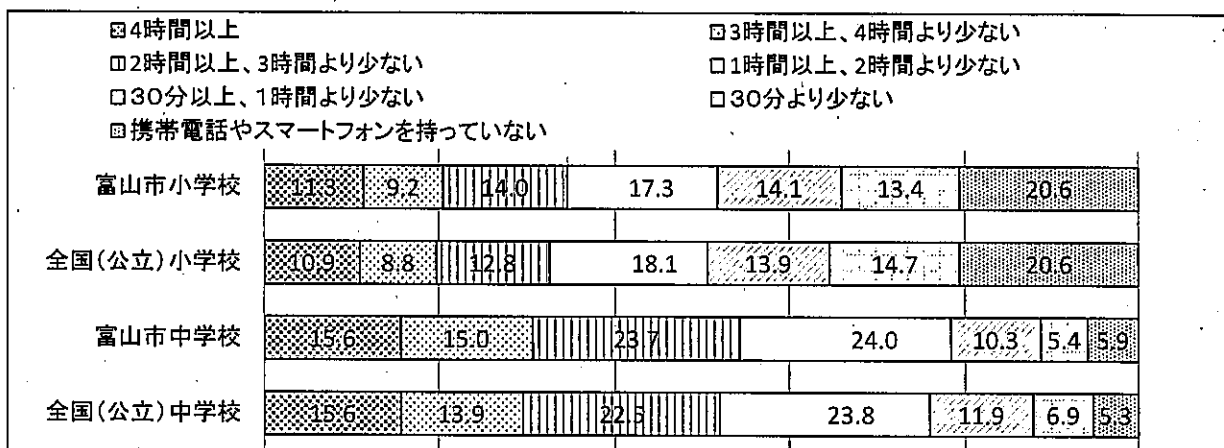
※ 「同じ時刻に寝ている」「どちらかといえば、寝ている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

13 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



※ 「きちんと守っている」「だいたい守っている」児童の割合は全国よりやや高いが、生徒の割合は全国とほぼ同じである。

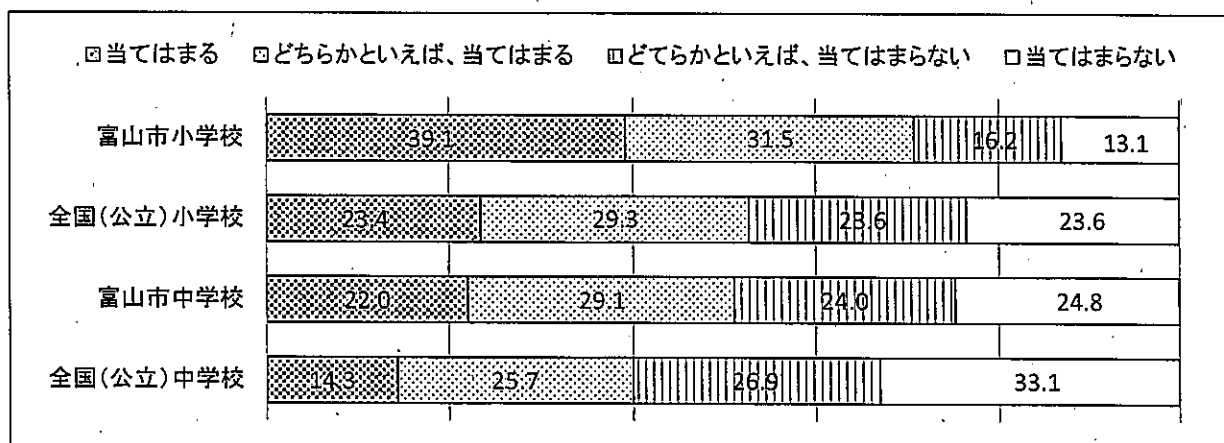
14 ★普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)



※ 「普段(月～金曜日)、1時間以上携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴など(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)を行っている児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

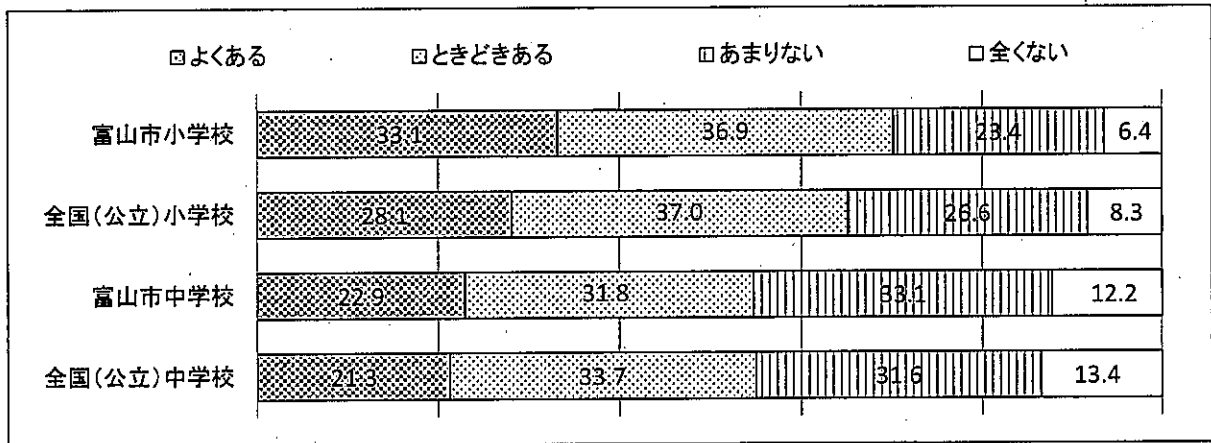
【地域や社会に対する興味・関心】

15 今住んでいる地域の行事に参加していますか。



※ 「地域の行事に参加している」「どちらかといえば、している」児童生徒の割合は全国よりかなり高い。

16 ★自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか。

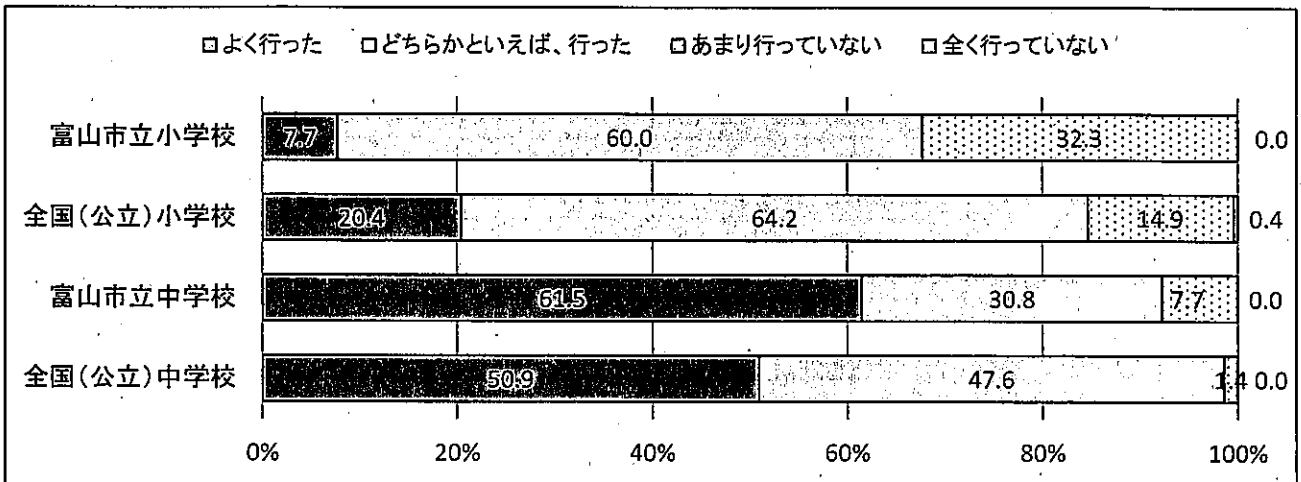


※ 「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある」生徒の割合は全国とほぼ同じであるが、児童の割合は全国よりやや高い。

5 学校質問紙調査 (◎のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)
 ※ その他・無回答は、データに含んでいない。

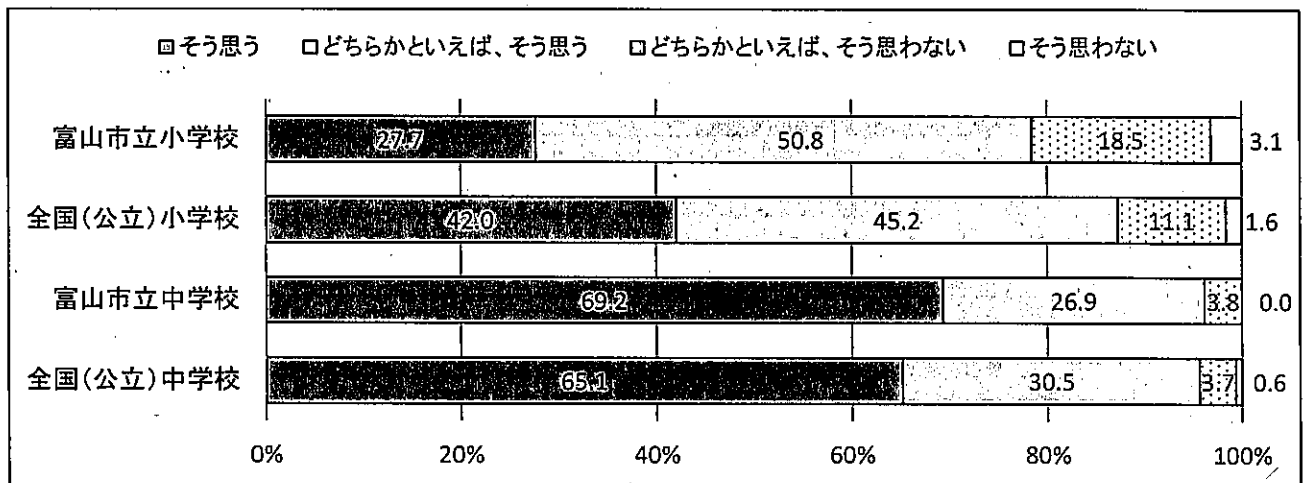
【児童・生徒指導等】

1 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした



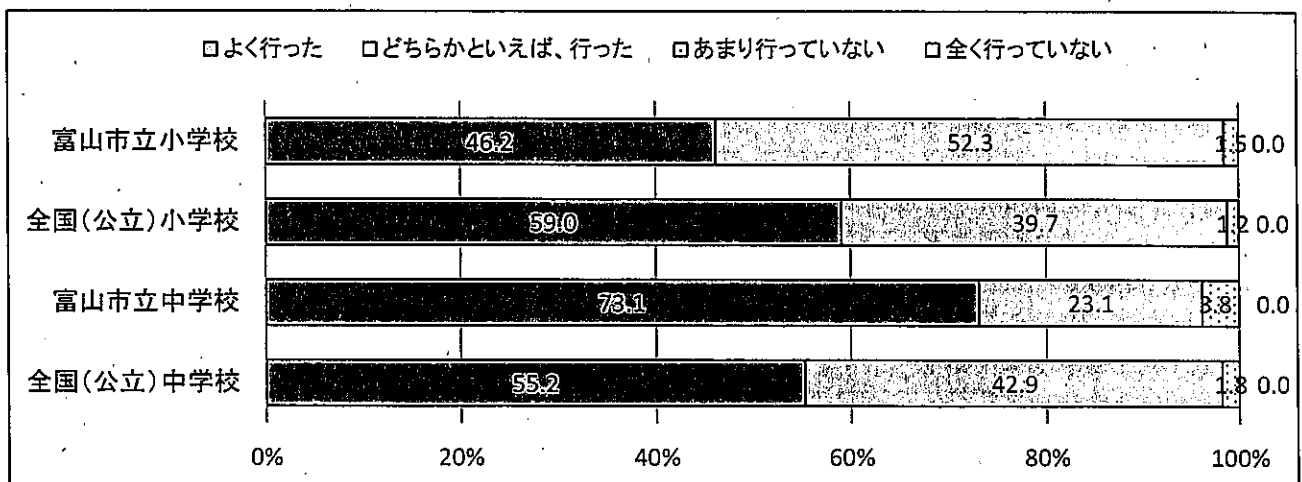
※ 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり低く、中学校は低い。

2 ◎授業中の私語が少なく、落ち着いている



※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校ほぼ同じである。

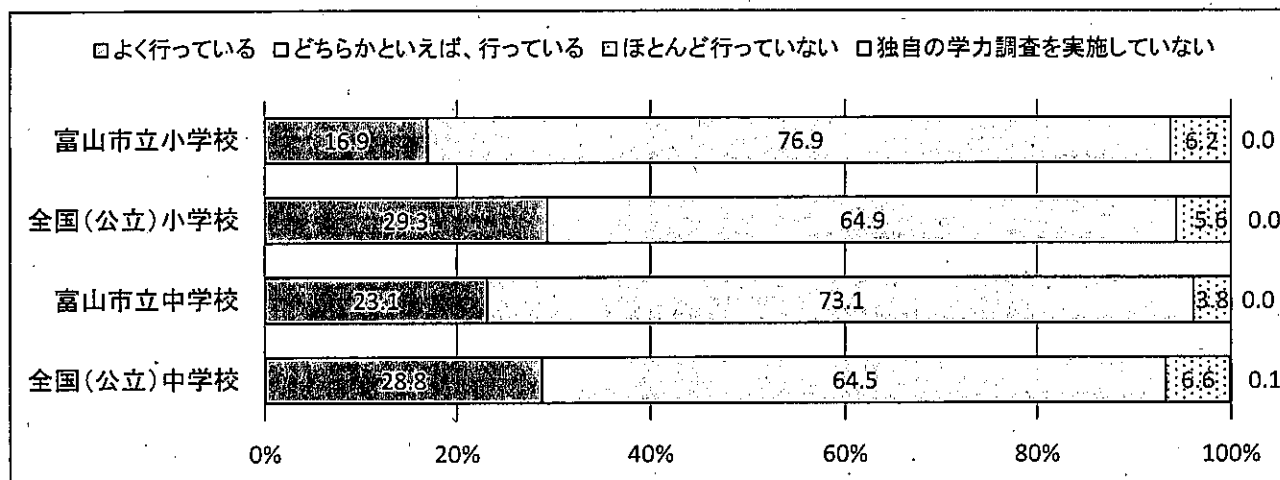
3 学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行った



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

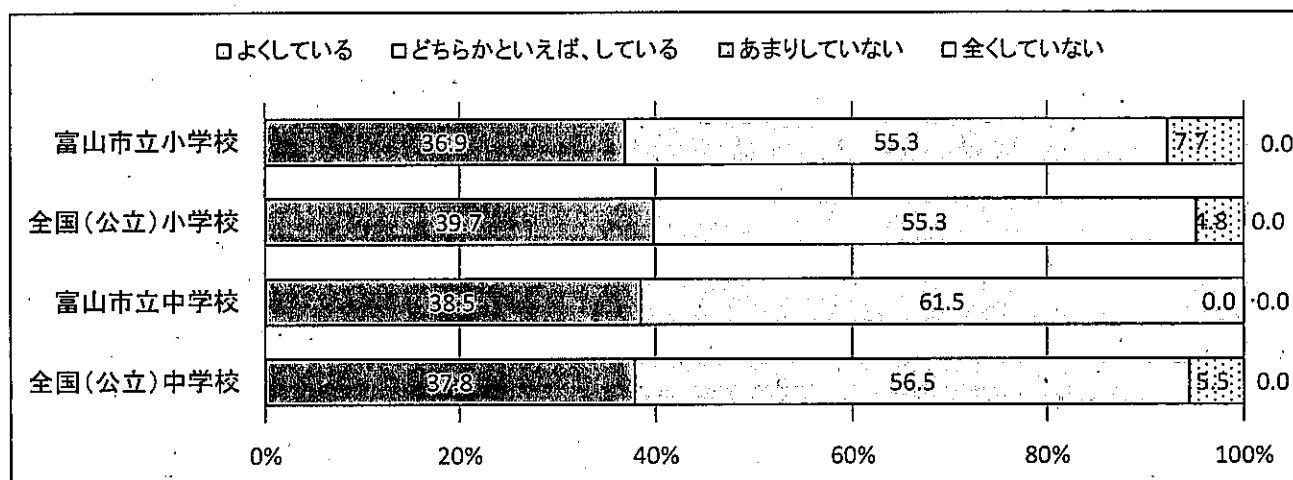
【学校運営に関する状況】

- 4 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



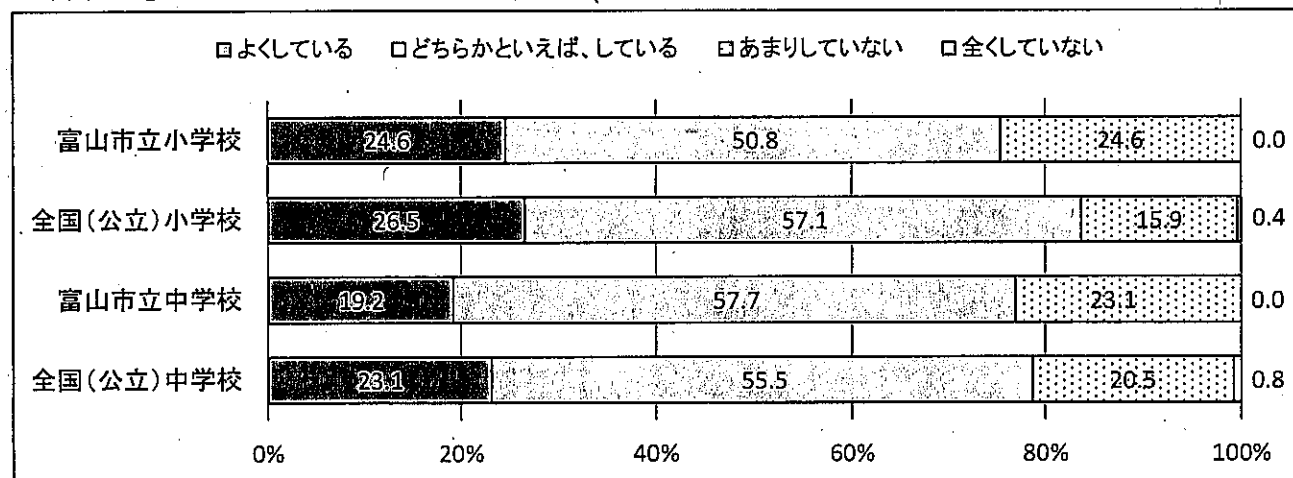
※ 「よく行っている」「どちらかといえば、行っている」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校はやや高い。

- 5 ◎ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいますか



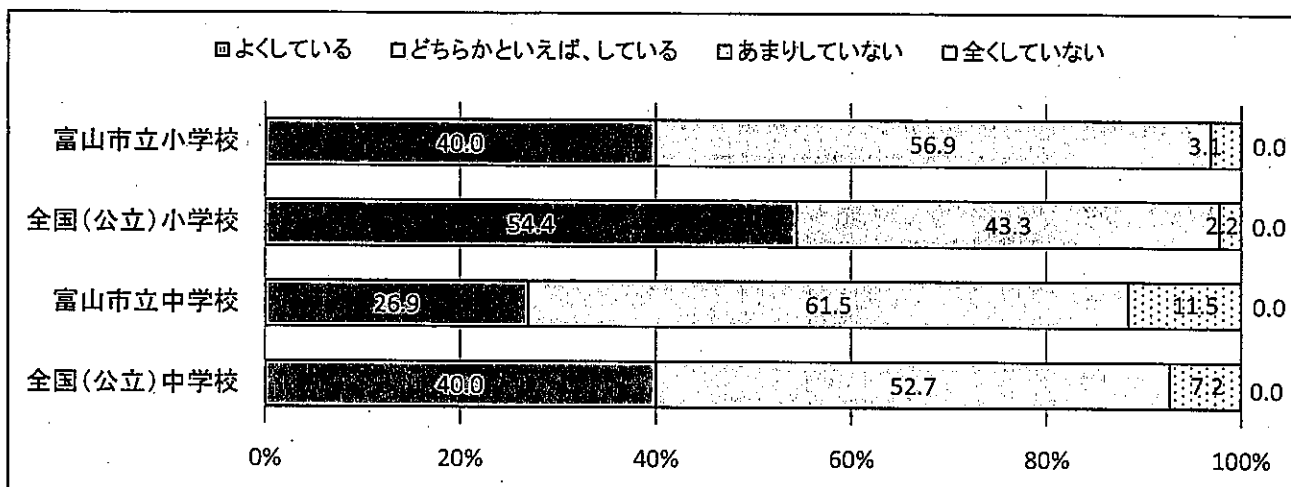
※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや低く、中学校は高い。

- 6 児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はやや低い。

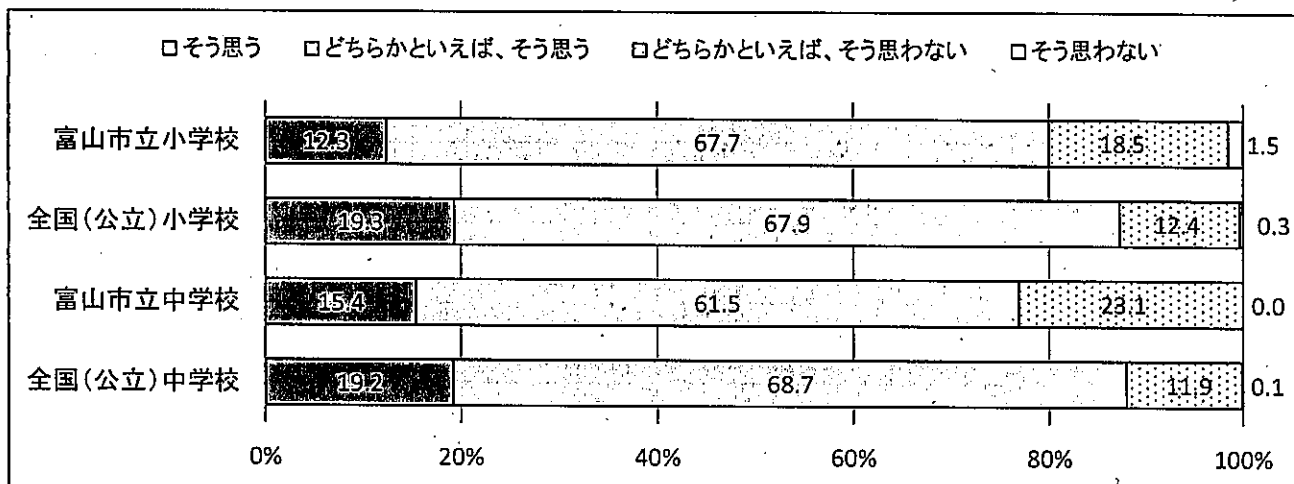
7 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じであり、中学校はやや低い。

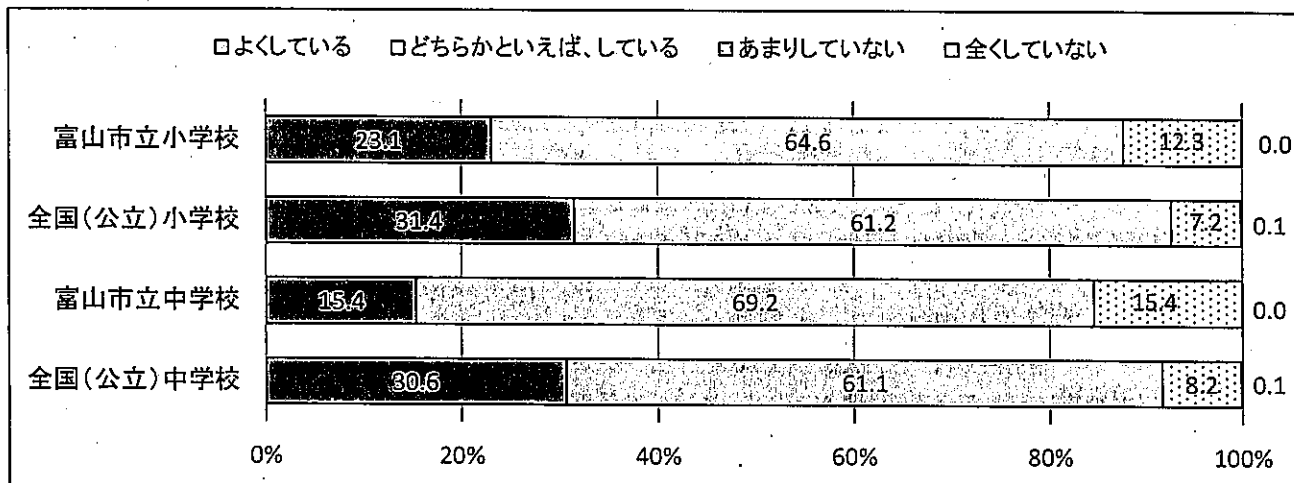
【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

8 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている



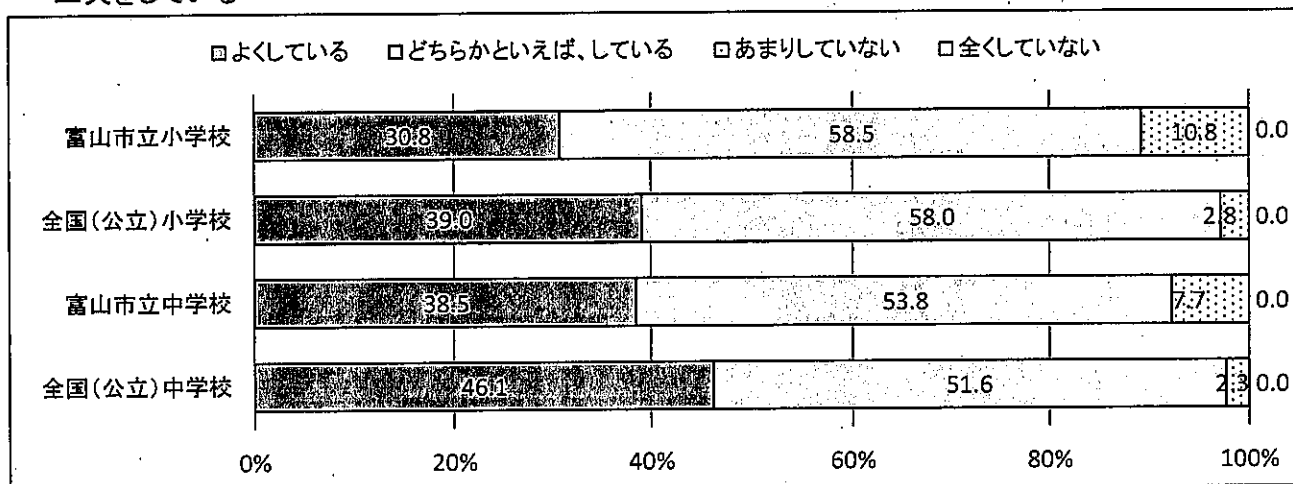
※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はかなり低い。

9 学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや低く、中学校は低い。

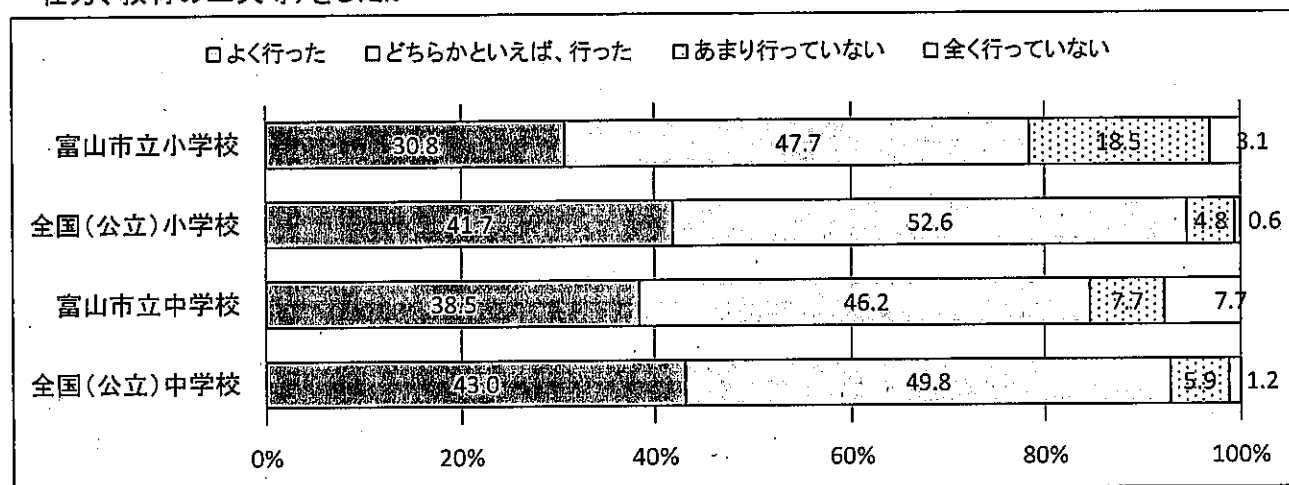
10 特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている



※ 「よく行っている」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じ、中学校は低い。

【特別支援教育】

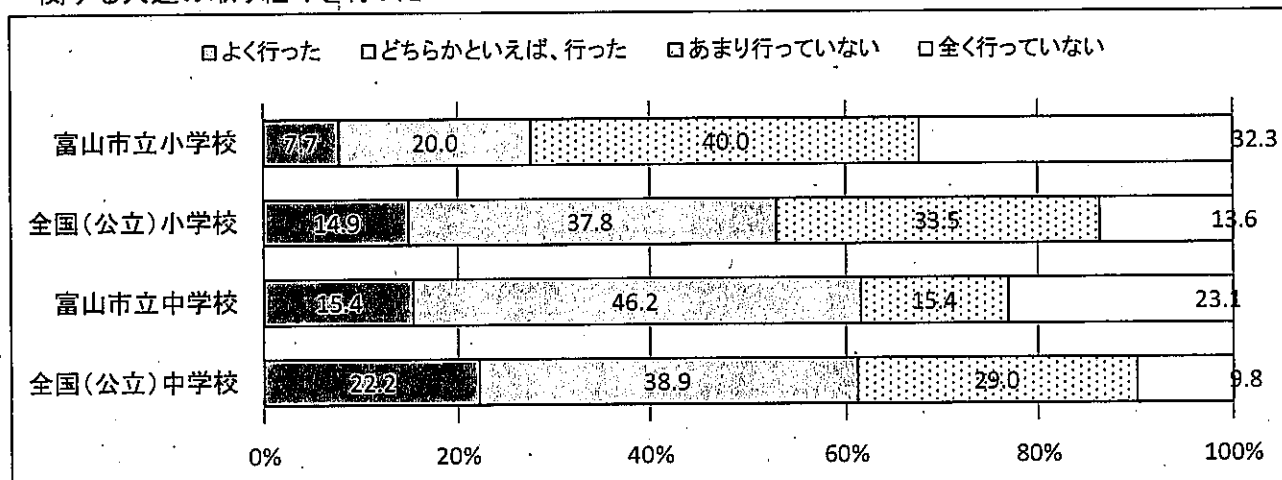
11 学校の教員は、特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)をしたか



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり低く、中学校は低い。

【小学校教育と中学校教育の連携】

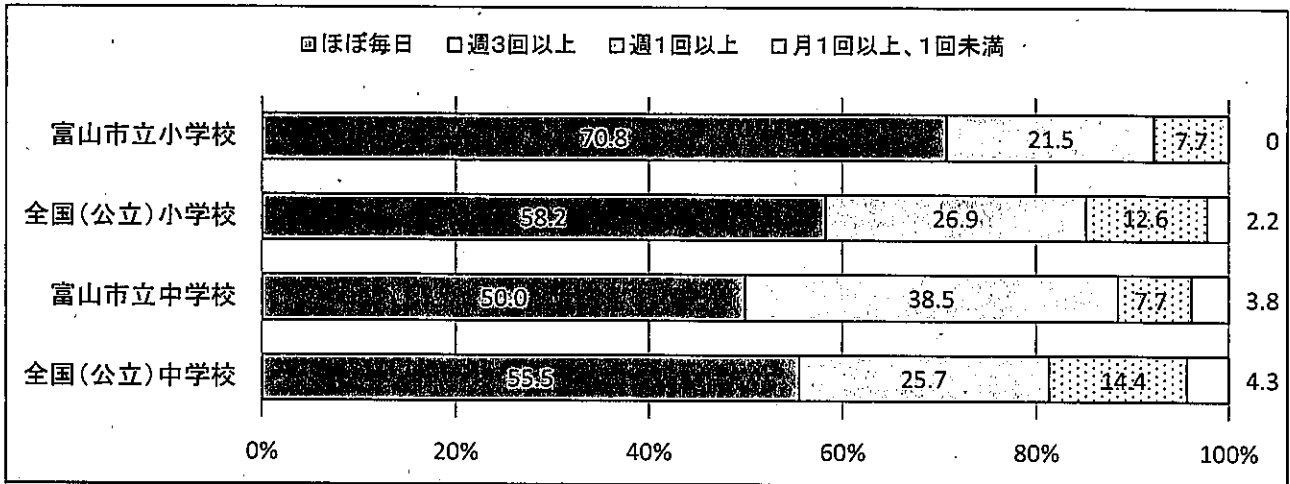
12 近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取り組みを行った



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり低く、中学校はほぼ同じである。

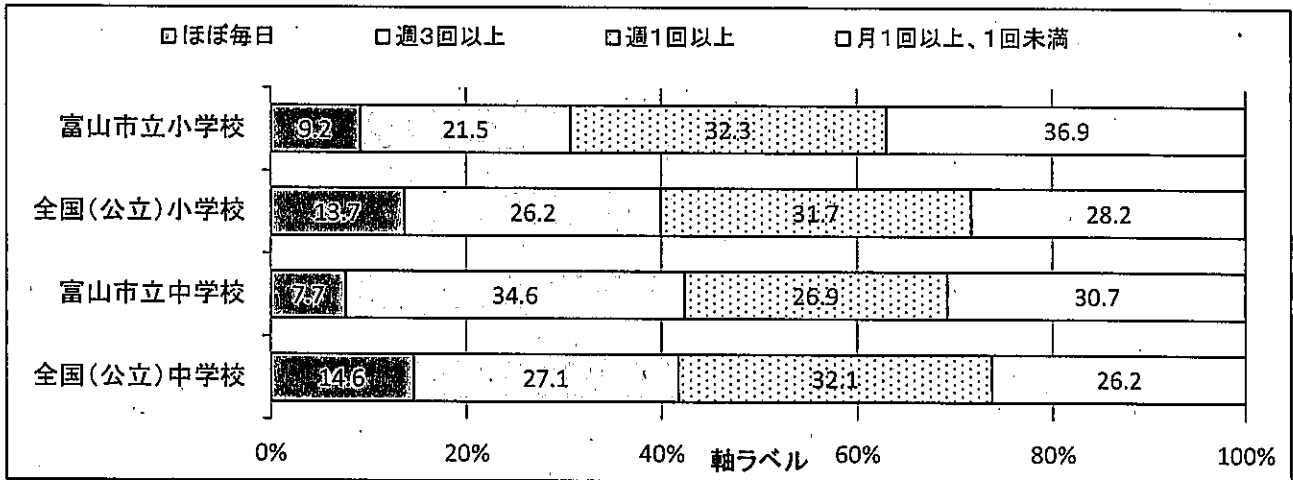
【ICTの活用】

13 ◎一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用したか。



※ 「ほぼ毎日」「週3回以上」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともに高い。

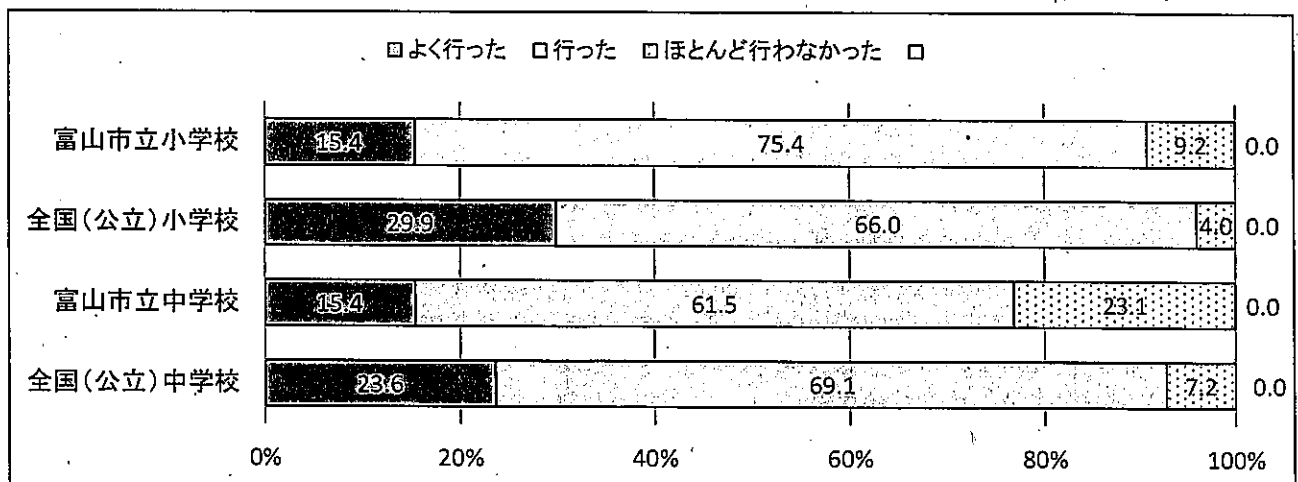
14 ◎自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用したか。



※ 「ほぼ毎日」「週3回以上」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はほぼ同じである。

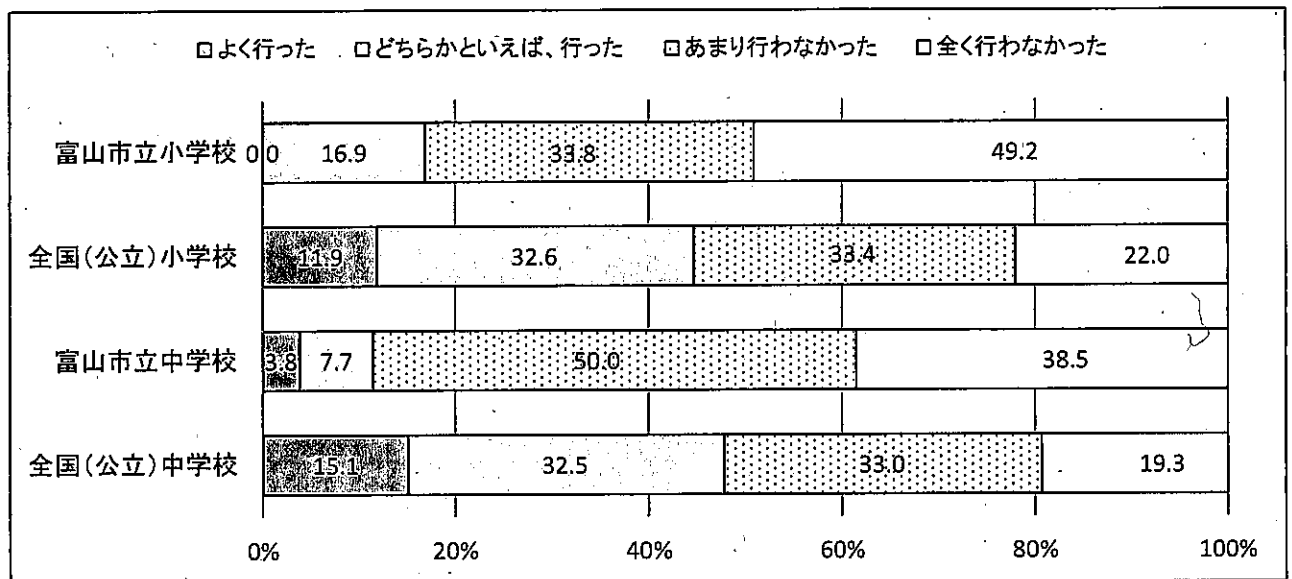
【調査結果の活用】

15 ◎令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した



※ 「よく行った」「行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はかなり低い。

16 ◎令和3年度全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有した



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小・中学校ともかなり低い。

